

令和4年度
男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書
《ダイジェスト版》

令和5年4月
柏市

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 調査の実施概要 | 1 |
| 家庭生活について | 2 |
| 問 1 日常的な事柄の現在の役割分担 | 2 |
| 問 2 日常的な事柄の理想的な役割分担 | 3 |
| 問 3 結婚や離婚に関する考え方 | 4 |
| 問 4 子どもの育て方に関する考え方 | 5 |
| 問 5 男性の各活動への参加促進 | 6 |
| 就労について | 7 |
| 問 6 女性の働き方の理想 | 7 |
| 問 7 女性の現実の働き方 | 8 |
| 問 8 職場での休暇・休業のとりやすさ | 9 |
| 問 9 男性の育児休業や介護休業取得 | 10 |
| 問 10 仕事と家庭の両立に必要なこと | 11 |
| 少子・高齢化について | 12 |
| 問 11 出生率低下の原因 | 12 |
| 問 12 子どもを産み育てやすい社会にするために必要なこと | 13 |
| 問 13 老後の不安 | 14 |
| 問 14 身の回りの世話をしてもらいたい相手 | 15 |
| 性・暴力と人権について | 16 |
| 問 15 女性の人権が侵害されていると感じること | 16 |
| 問 16 DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うこと | 17 |
| 問 17 DVの被害経験、加害経験 | 18 |
| 問 18 相談の有無 | 21 |
| 問 18-1 相談先 | 22 |
| 問 18-2 相談しなかった理由 | 23 |
| 性別の意識や考え方について | 24 |
| 問 19 性別で役割を分担する考え方 | 24 |
| 問 20 ポジティブ・アクションの考え方 | 25 |
| 問 21 進路や職業を選択する際の性別意識 | 26 |
| 問 22 各分野での男女平等 | 27 |
| 個人の活動や行政への期待について | 28 |
| 問 23 (1) 現在参加している地域活動 | 28 |
| 問 23 (2) 今後参加したい、または引き続き行いたい地域活動 | 29 |
| 問 24 「男女共同参画社会」形成のために取り組むべき施策 | 30 |
| 問 25 男女平等推進策の認知状況 | 31 |

調査の実施概要

1. 調査項目

- | | |
|----------------|----------------------|
| (1) 家庭生活について | (4) 性・暴力と人権について |
| (2) 就労について | (5) 性別の意識や考え方について |
| (3) 少子・高齢化について | (6) 個人の活動や行政への期待について |

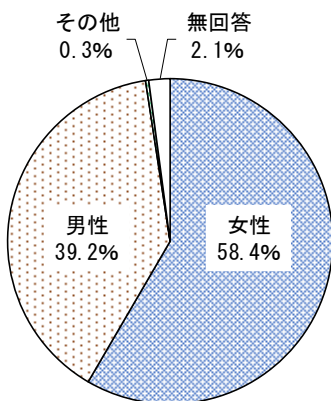
2. 調査設計

- | | |
|------------|--------------------------------|
| (1) 調査地域 | 柏市内全域 |
| (2) 調査対象 | 柏市内在住の満 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 2,000 人 |
| (4) 標本抽出 | 等間隔無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 令和 5 年 2 月 8 日～令和 5 年 2 月 17 日 |
| (7) 調査実施機関 | (株) 物流科学研究所 |

3. 回収結果

- | | |
|--------------------|-------|
| (1) 標本数（アンケート票配布数） | 2,000 |
| (2) 有効回収数 | 618 |
| (3) 有効回収率 | 30.9% |

4. 回答者の属性



| | 単位：% | | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|
| | 10 歳代 | 20 歳代 | 30 歳代 | 40 歳代 | 50 歳代 | 60 歳代 | 70 歳以上 | 無回答 |
| 全体 (618人) | 6.6 | 13.3 | 17.2 | 16.7 | 16.3 | 28.0 | 1.0 | 1.0 |
| 女性 (361人) | 6.6 | 15.0 | 17.2 | 17.5 | 16.3 | 26.3 | 0.3 | 0.3 |
| 男性 (242人) | 7.0 | 11.6 | 16.5 | 16.5 | 16.5 | 30.6 | 0.0 | 0.0 |

5. 報告書の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率 (%) の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示した。したがって、単数回答（1 つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、% を足し合わせて 100% にならない場合がある。同様に、複数の選択肢の合計値（例：『そう思う（計）』＝『そう思う』と『どちらかといえばそう思う』の合計）についても、個々の数値の合計と一致しない場合がある。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映している。
- ・複数回答（2 つ以上選んでよい問）においては、% の合計が 100% を超える場合がある。

家庭生活について

問1 次のような日常的な事柄は、主に誰がしていますか。

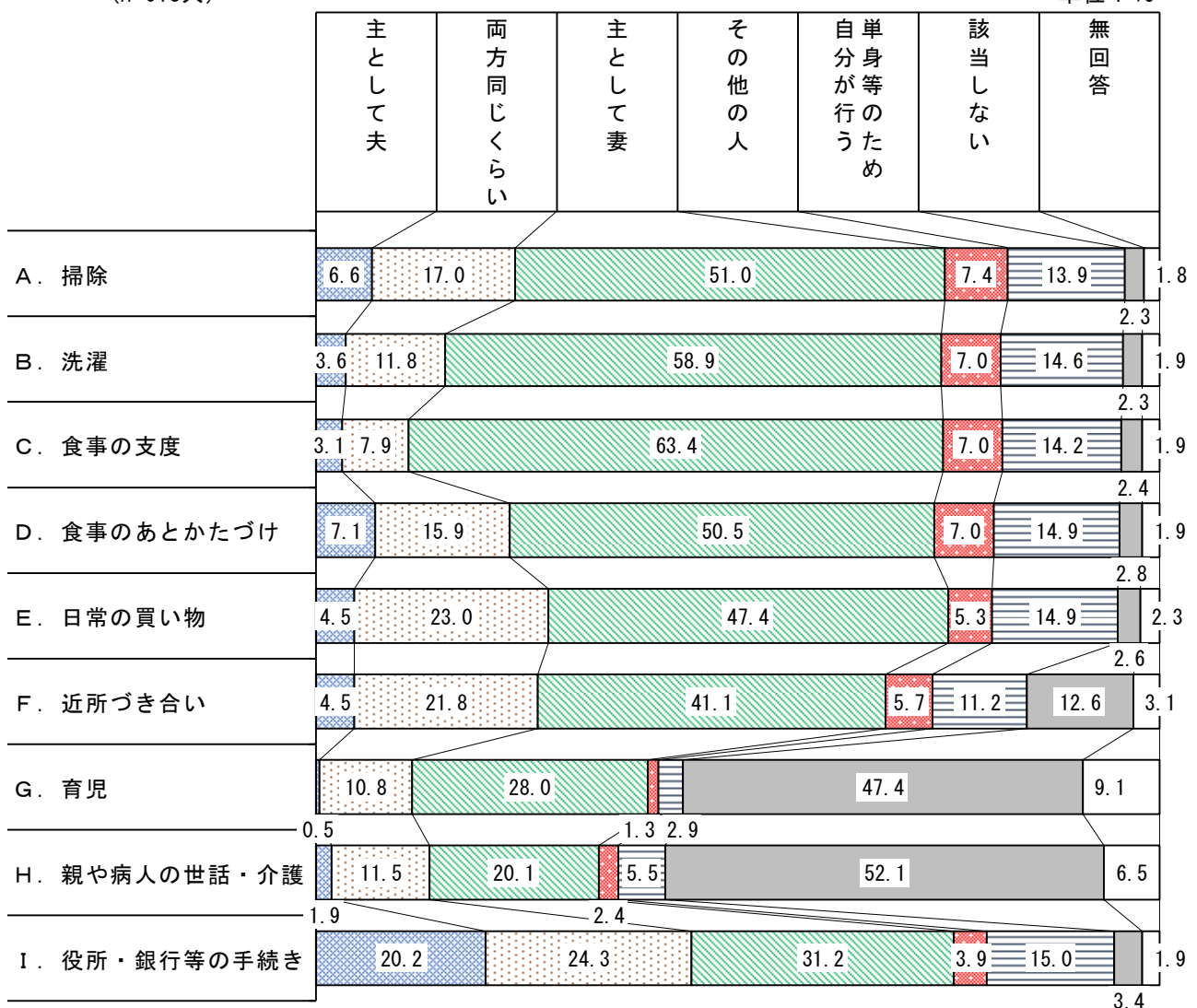
(A～Iのそれぞれについて、1～6のどれかにひとつずつ○)

日常的な事柄の担い手については、「G. 育児」「H. 親や病人の世話・介護」は「該当しない」、それ以外は「主として妻」が最も多い。

「両方同じくらい」は、「I. 役所・銀行等の手続き」(24.3%)が最も多く、「E. 日常の買い物」(23.0%)、「F. 近所づき合い」(21.8%)が続く。また、「主として夫」は「I. 役所・銀行等の手続き」が20.2%で最も多い。

(n=618人)

単位：%



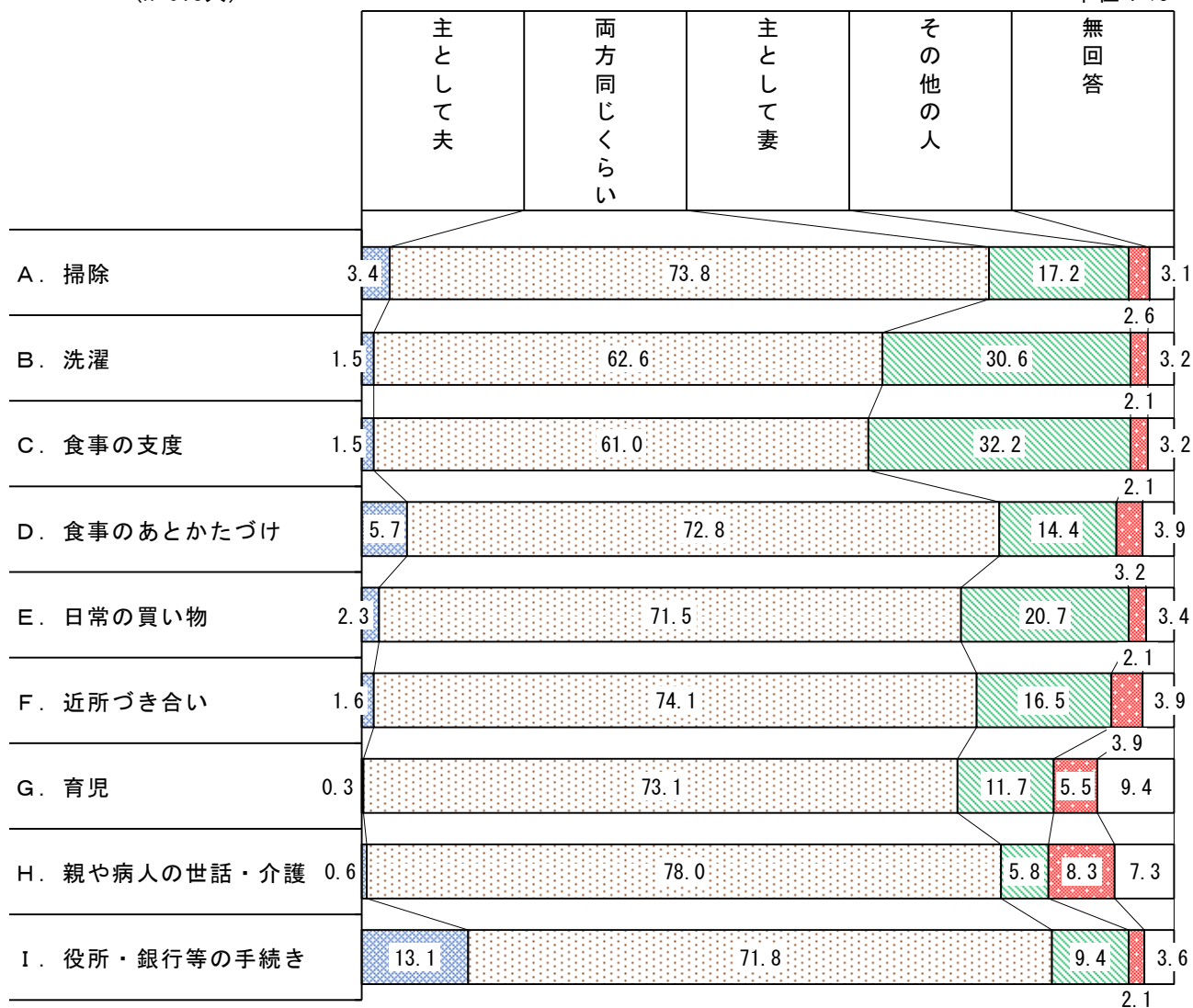
問2 次のような日常的な事柄は、主に誰がするのが理想的だと思いますか。

(A～Iのそれぞれについて、1～4のどれかにひとつずつ○)

日常的な事柄の理想的な担い手については、すべての項目で「両方同じくらい」が6割を超え、最も多い。「主として妻」は「B. 洗濯」(30.6%)「C. 食事の支度」(32.2%)で3割を超える。

(n=618人)

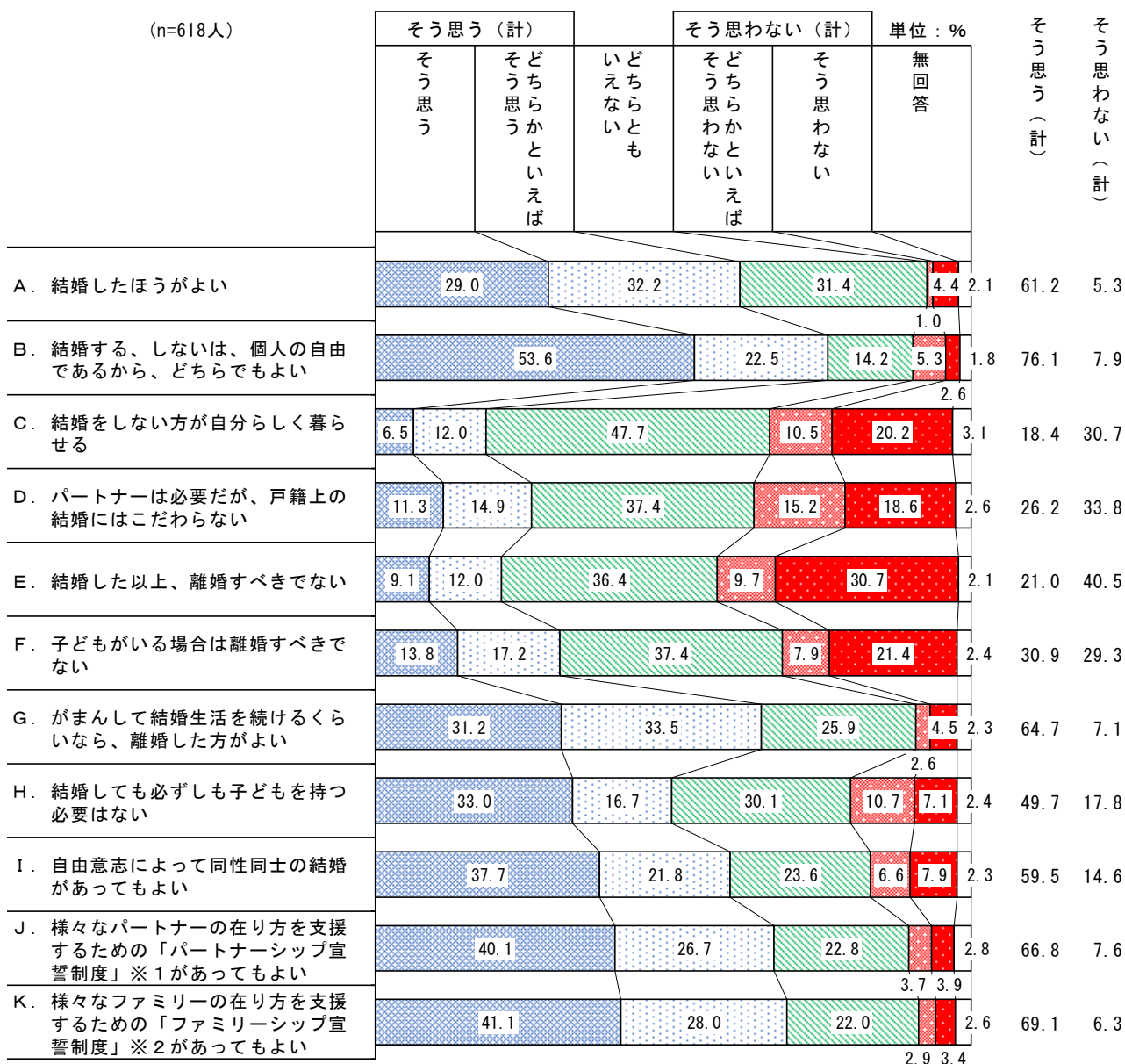
単位：%



問3 結婚や離婚についてどう思いますか。

(A～Kのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ○)

結婚観については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「B. 結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい」が76.1%で最も多く、「K. 様々なファミリーの在り方を支援するための「ファミリーシップ宣誓制度」があってもよい」(69.1%)が続く。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「E. 結婚した以上、離婚すべきでない」が40.5%で最も多く、「D. パートナーは必要だが、戸籍上の結婚にはこだわらない」(33.8%)が続く。

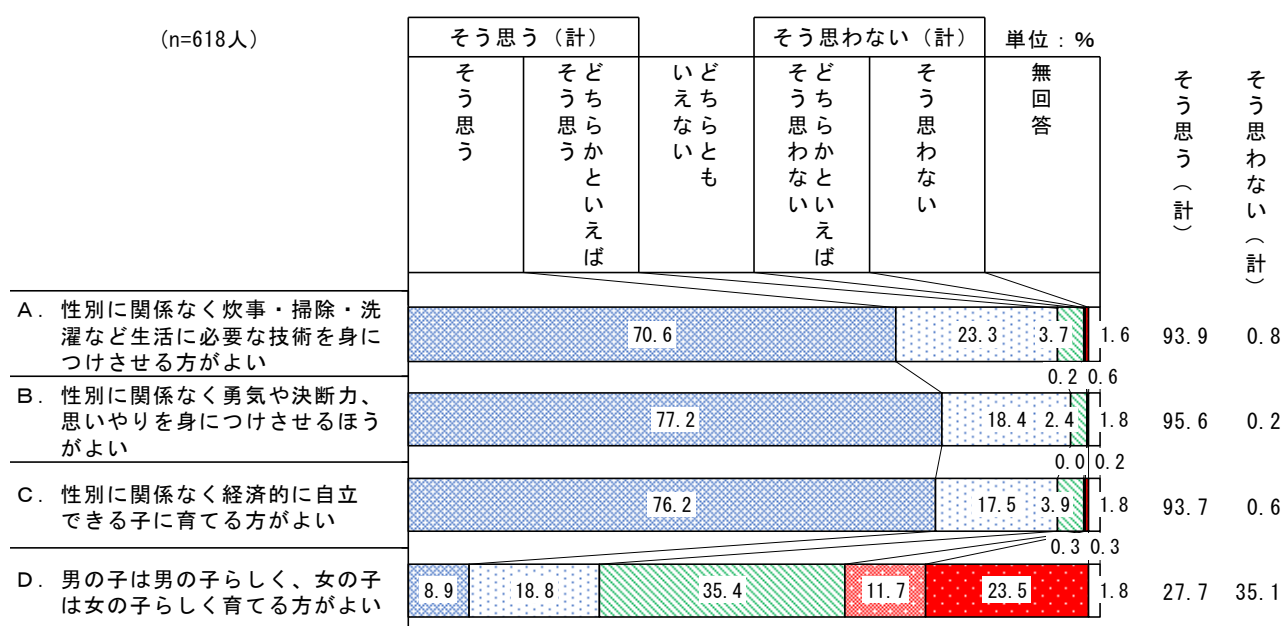


問4 子どもの育て方についてどう思いますか。

(A～Dのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ○)

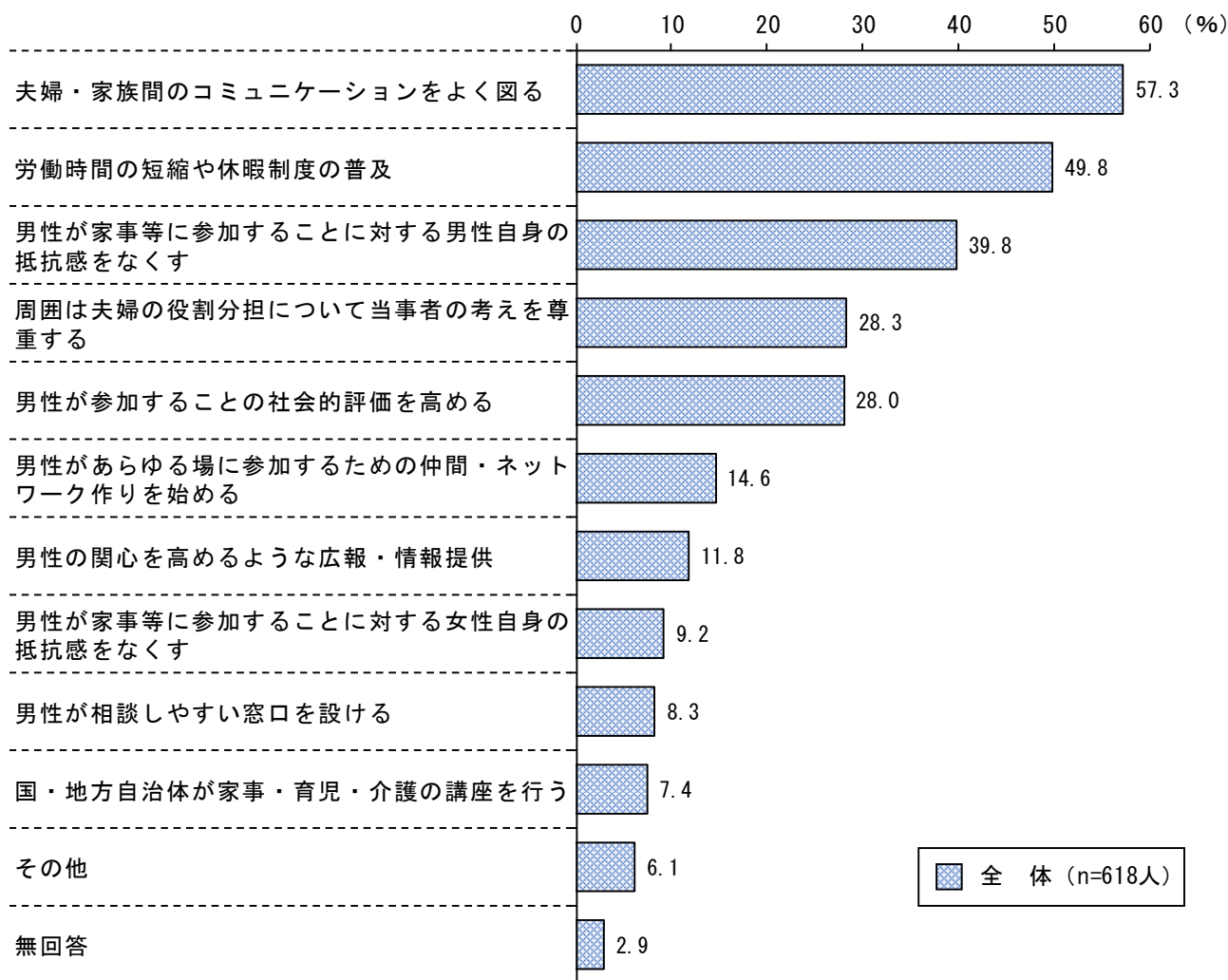
子どもの育て方に関する考え方については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「A. 性別に関係なく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(93.9%)、「B. 性別に関係なく勇気や決断力、思いやりを身につけさせるほうがよい」(95.6%)、「C. 性別に関係なく経済的に自立できる子に育てる方がよい」(93.7%)、いずれも9割を超える。

一方、「D. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」は、『そう思う(計)』(27.7%)が『そう思わない(計)』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)の35.1%を下回る。



問5 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加するためにどのようなことをすればよいと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

男性の各活動への参加を促すための方法については、「夫婦・家族間のコミュニケーションをよく図る」が57.3%で最も多く、「労働時間の短縮や休暇制度の普及」(49.8%)、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(39.8%)が続く。

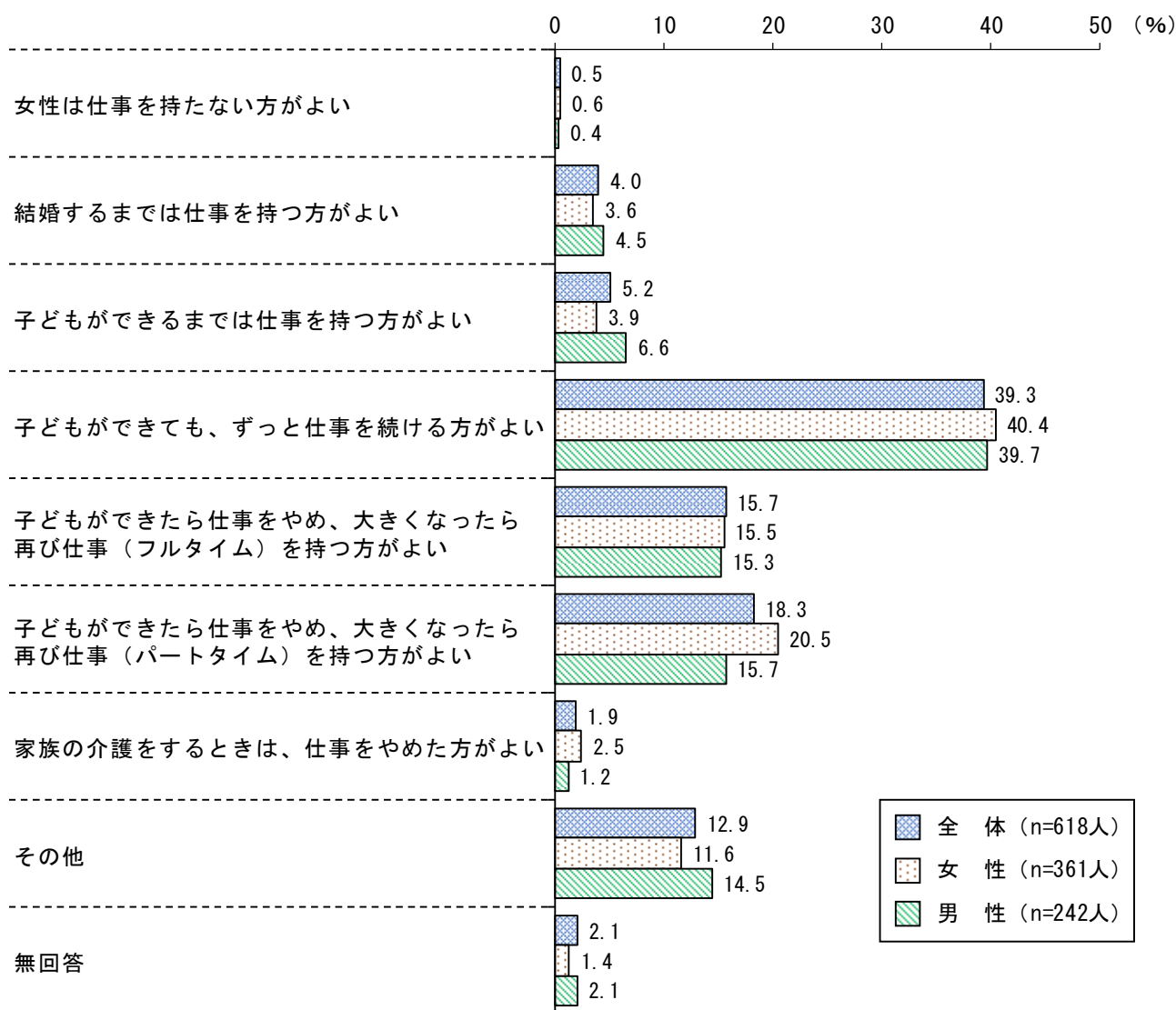


就労について

問6 一般的に女性の働き方の理想は次のどれだと思いますか。(ひとつに○)

女性の働き方の理想については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が39.3%で最も多く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」（18.3%）、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（フルタイム）を持つ方がよい」（15.7%）が続く。

性別でみると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ方がよい」は女性（20.5%）が男性（15.7%）より4.8ポイント多い。



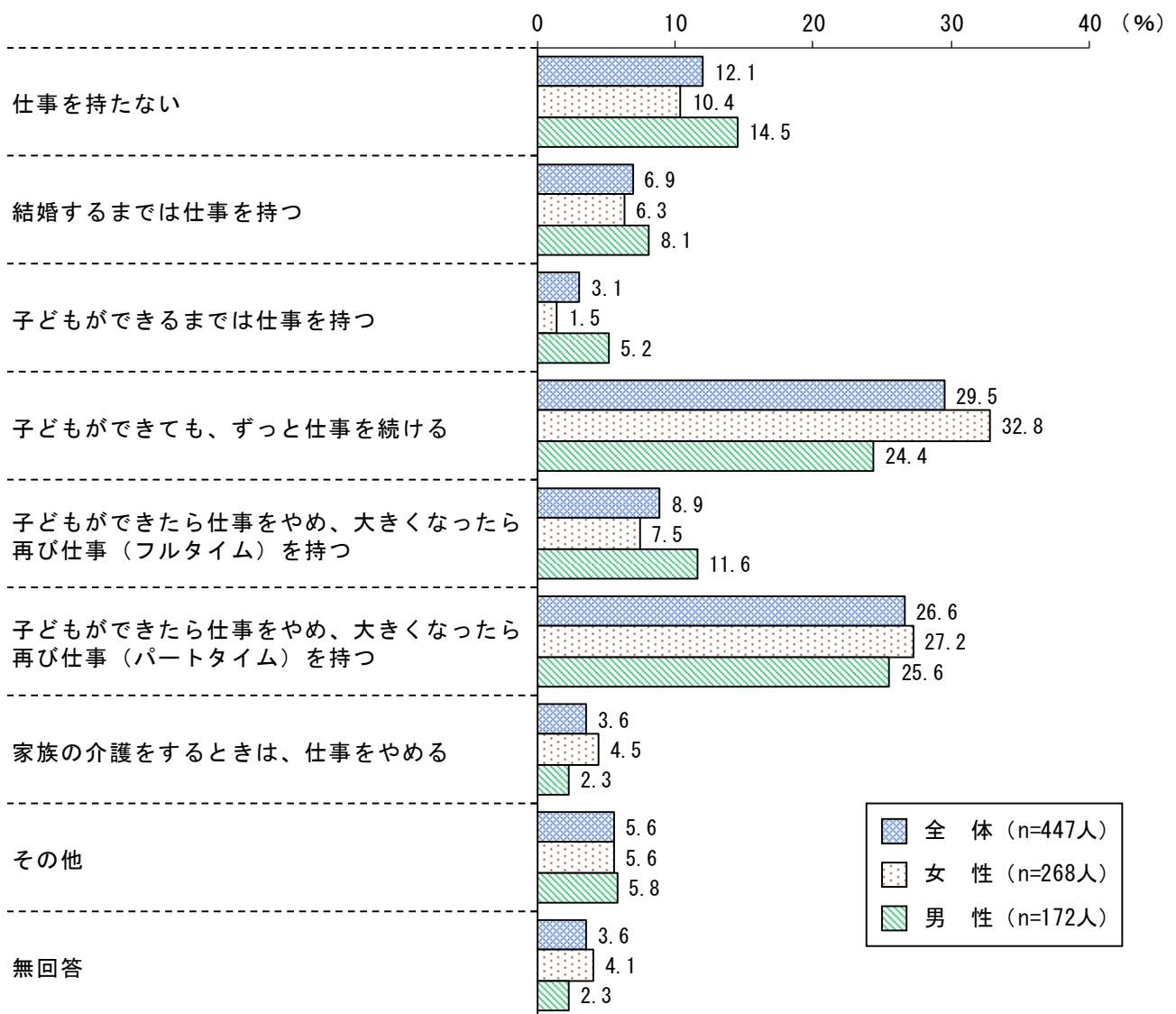
問7 【この問は、配偶者・パートナーがいる方におたずねします】

現在、あなた自身の働き方（男性の場合は配偶者の働き方）はどれにあたりますか。

(ひとつに○)

女性の現実の働き方については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける」が29.5%で最も多く、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」(26.6%)、「仕事を持たない」(12.1%)が続く。

性別でみると、女性は「子どもができて、ずっと仕事を続ける」(32.8%)が最も多く、男性(24.4%)を8.4ポイント上回る。一方、男性は「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事（パートタイム）を持つ」(25.6%)が最も多い。

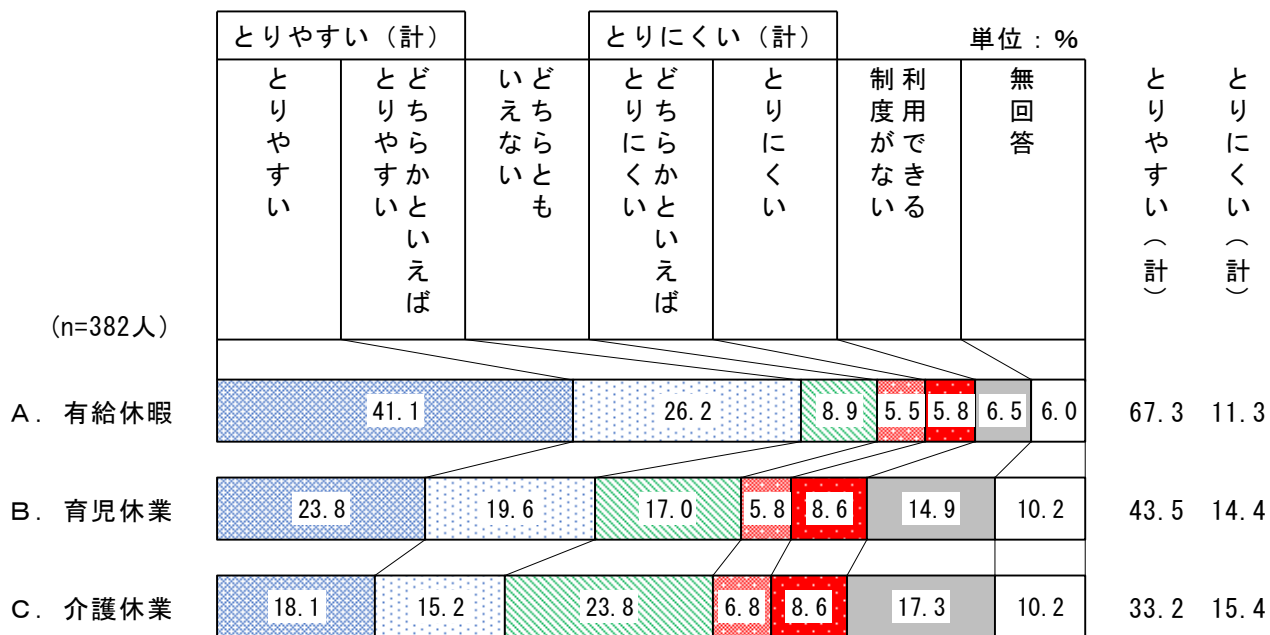


問8 【この問は、現在働いている方におたずねします】

あなたの職場は有給休暇・育児休業・介護休業はとりやすいですか。

(A～Cのそれぞれについて、1～6のどれかにひとつずつ○)

職場での休暇・休業のとりやすさについては、「とりやすい」「どちらかといえばとりやすい」を合わせた『とりやすい(計)』は、「A. 有給休暇」で67.3%、「B. 育児休業」で43.5%、「C. 介護休業」で33.2%となっている。

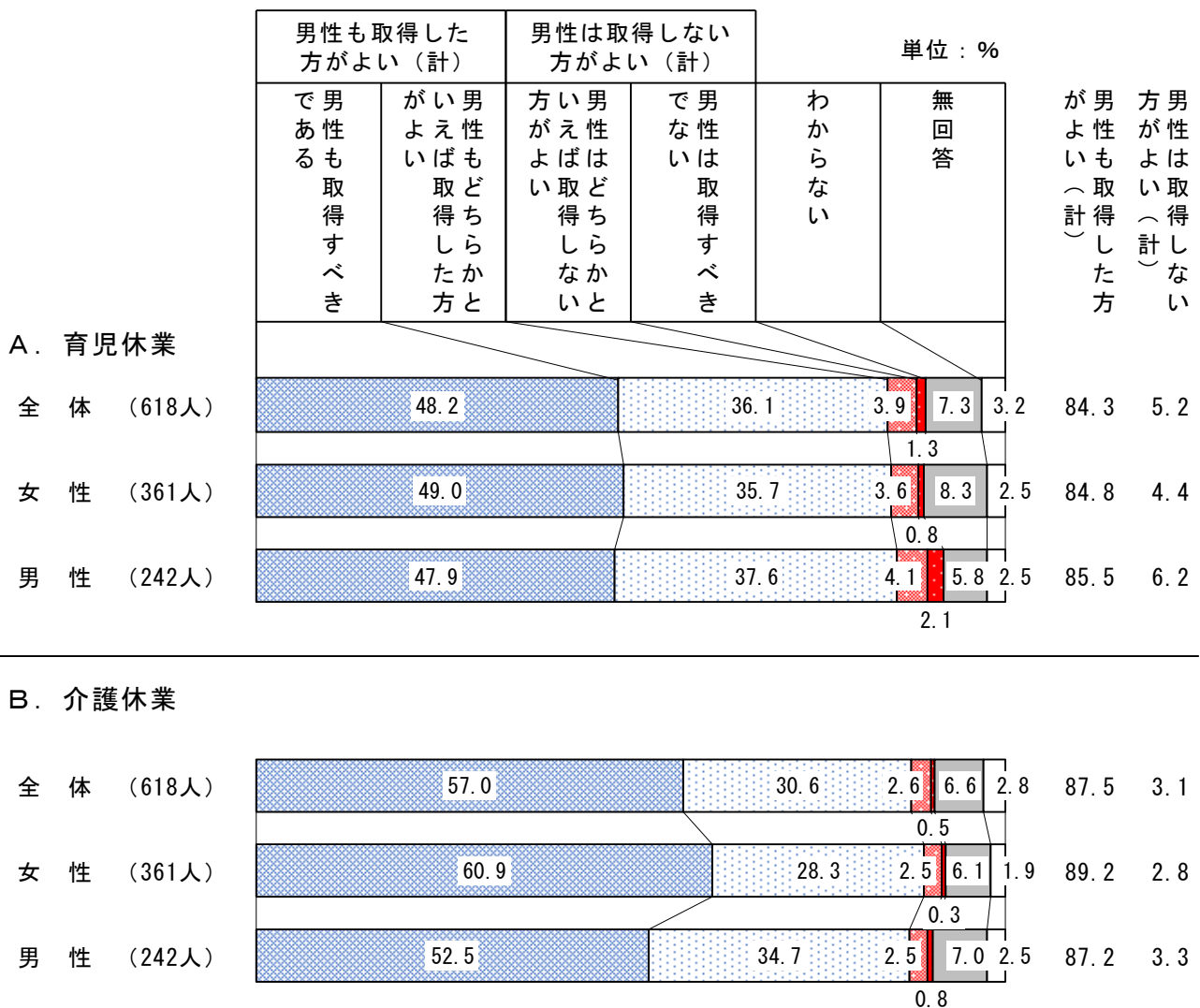


問9 あなたは男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

(A～Bのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ○)

男性が育児休業や介護休業をとることについては、「男性も取得すべきである」と「男性もどちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『男性も取得した方がよい(計)』は、「A. 育児休業」(84.3%)、「B. 介護休業」(87.5%)とも8割を超えている。

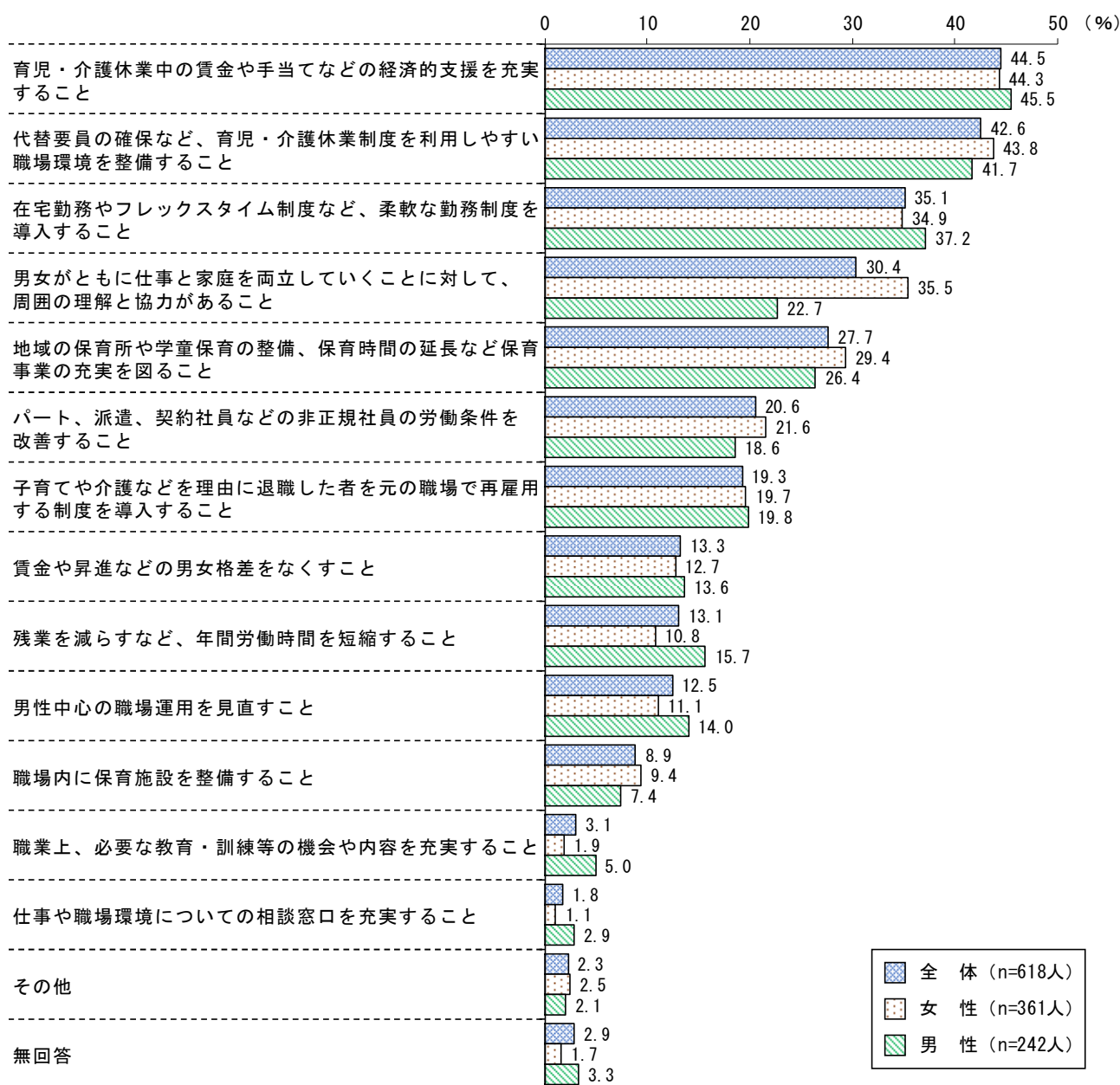
性別でみると、いずれも『男性も取得した方がよい(計)』に大きな差はみられないが、「B. 介護休業」については、女性は「男性も取得すべきである」が60.9%と、男性(52.5%)を8.4ポイント上回る。



問10 あなたは男女がともに仕事と家庭を両立していくために、どのような環境整備が必要だと思いますか。(あてはまるものに3つまで○)

仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備については、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が44.5%で最も多く、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」(42.6%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(35.1%)が続く。

性別でみると、「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」は男性(35.5%)が女性(22.7%)より12.8ポイント多い。



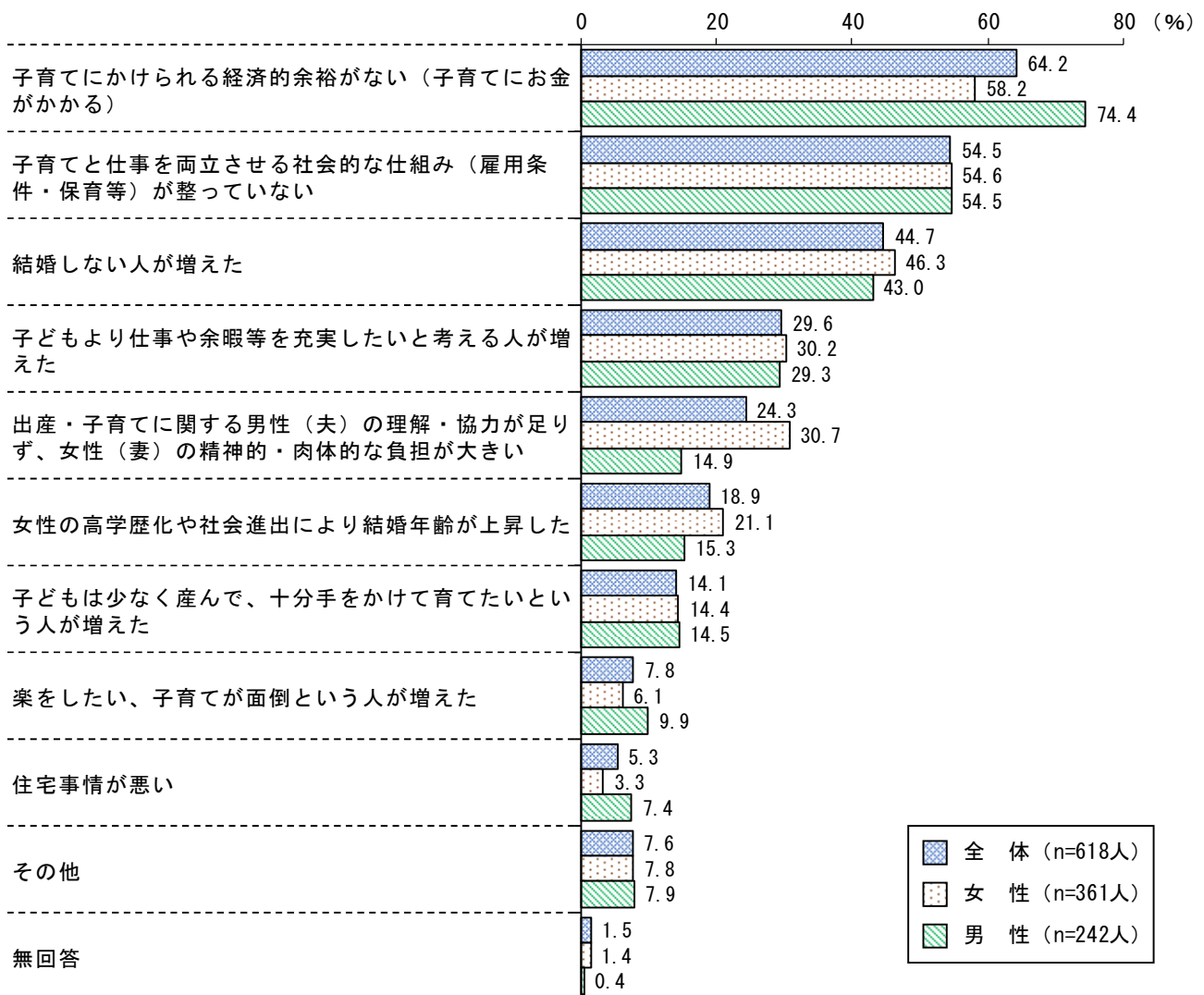
少子・高齢化について

問 11 あなたは出生率が低下しているのは何が原因だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○)

出生率が低下している原因については、「子育てにかけられる経済的余裕がない（子育てにお金がかかる）」が64.2%で最も多く、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」（54.5%）、「結婚しない人が増えた」（44.7%）が続く。

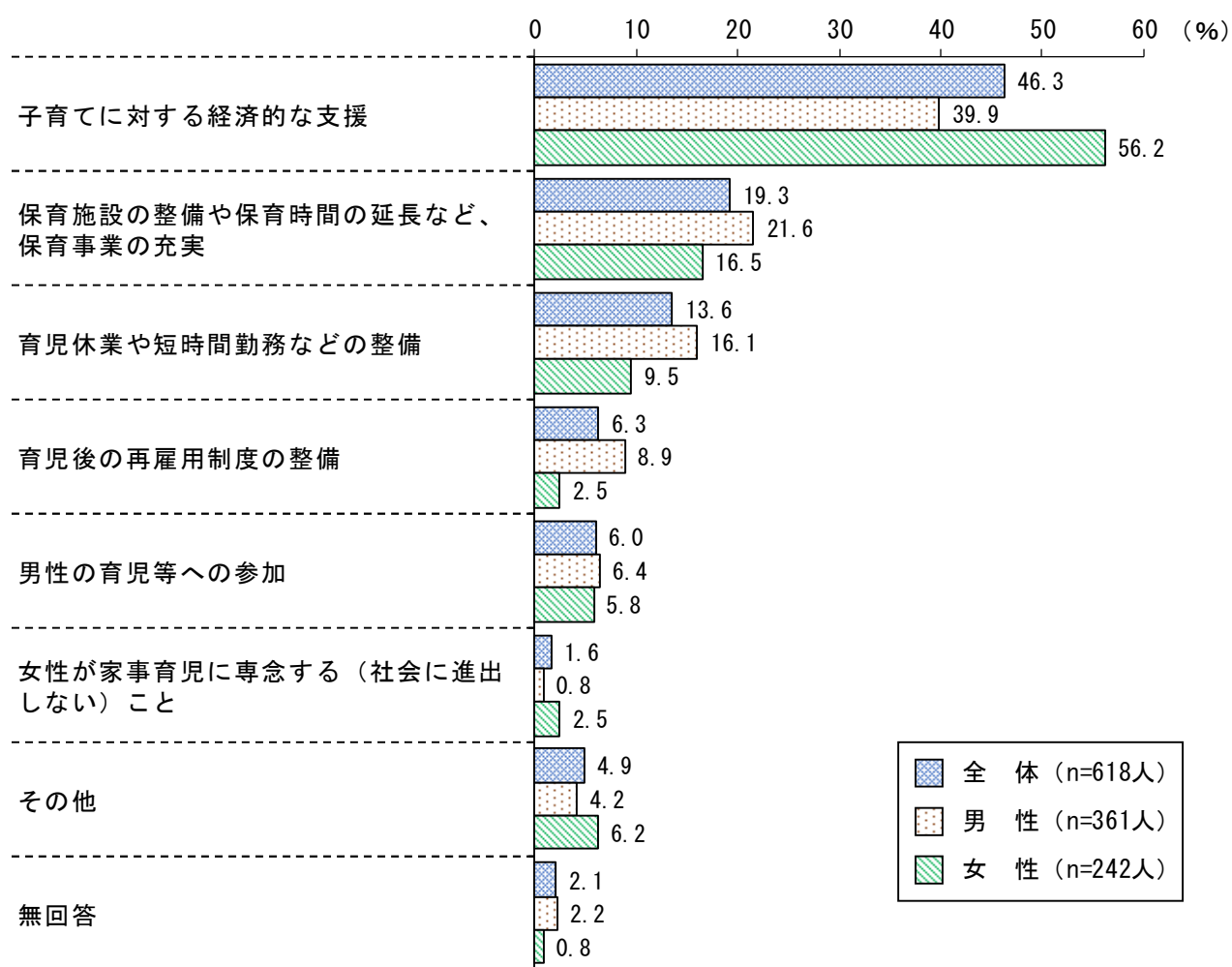
性別でみると、「出産・子育てに関する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的な負担が大きい」は15.8ポイント、「女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した」は5.8ポイント、女性が男性を上回り、前者は男性のほぼ2倍となっている。一方、「子育てにかけられる経済的余裕がない（子育てにお金がかかる）」は男性（74.4%）が女性（58.2%）より16.2ポイント多い。



問12 あなたは子どもを産み育てやすい社会にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(ひとつに○)

子どもを産み育てやすい社会にするために必要なことは、「子育てに対する経済的な支援」が46.3%で最も多く、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」(19.3%)、「育児休業や短時間勤務などの整備」(13.6%)が続く。

性別にみると、「子育てに対する経済的な支援」は女性(56.2%)が男性(39.9%)より16.3ポイント多い。一方、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」「育児休業や短時間勤務などの整備」「育児後の再雇用制度の整備」は男性が女性を上回る。

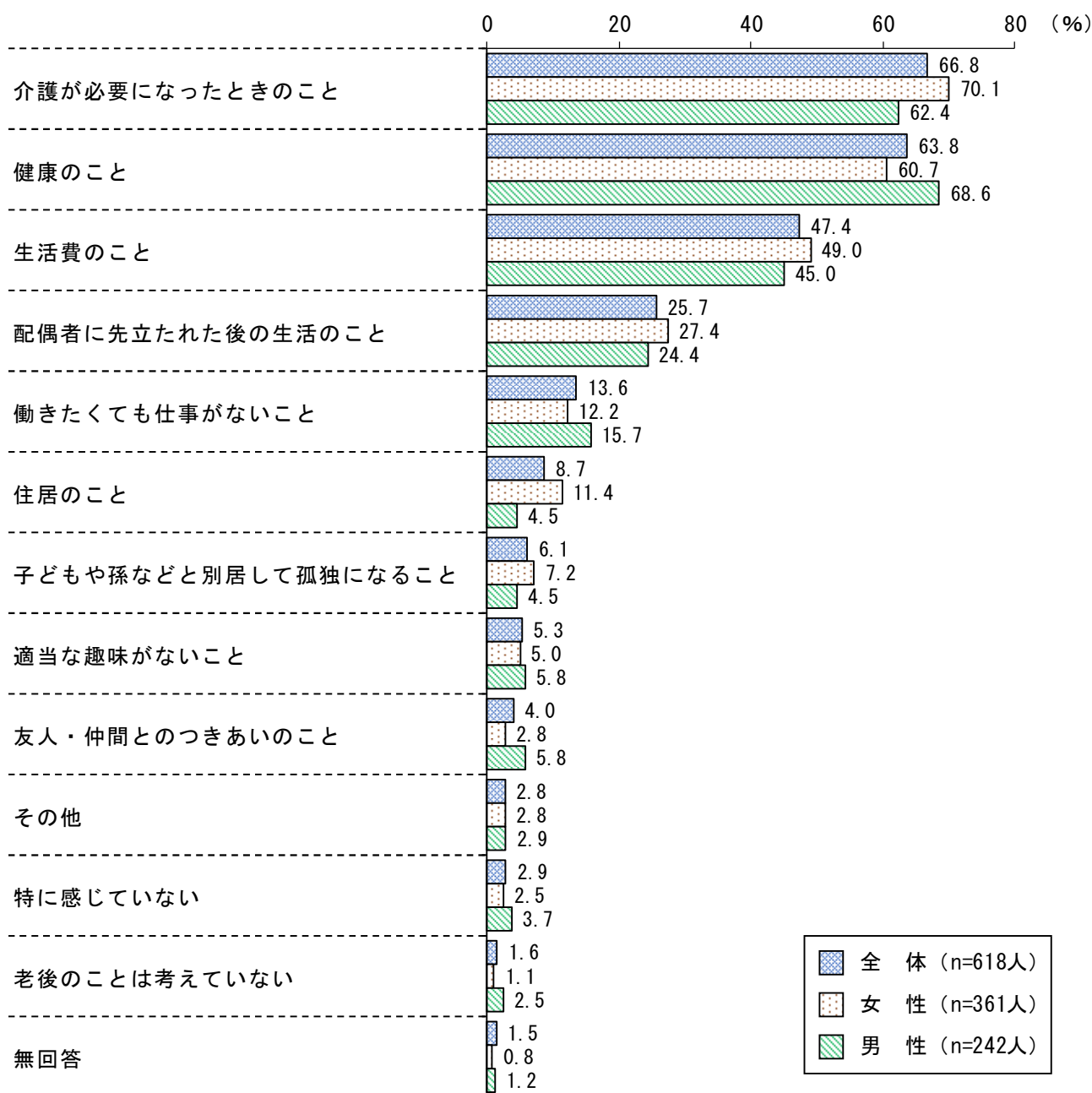


問 13 あなたが自分の老後に不安を感じるのはどのようなことですか。

(あてはまるものに3つまで○)

自分の老後にどのような不安を感じるかについては、「介護が必要になったときのこと」が 66.8%で最も多く、「健康のこと」(63.8%)、「生活費のこと」(47.4%)が続く。

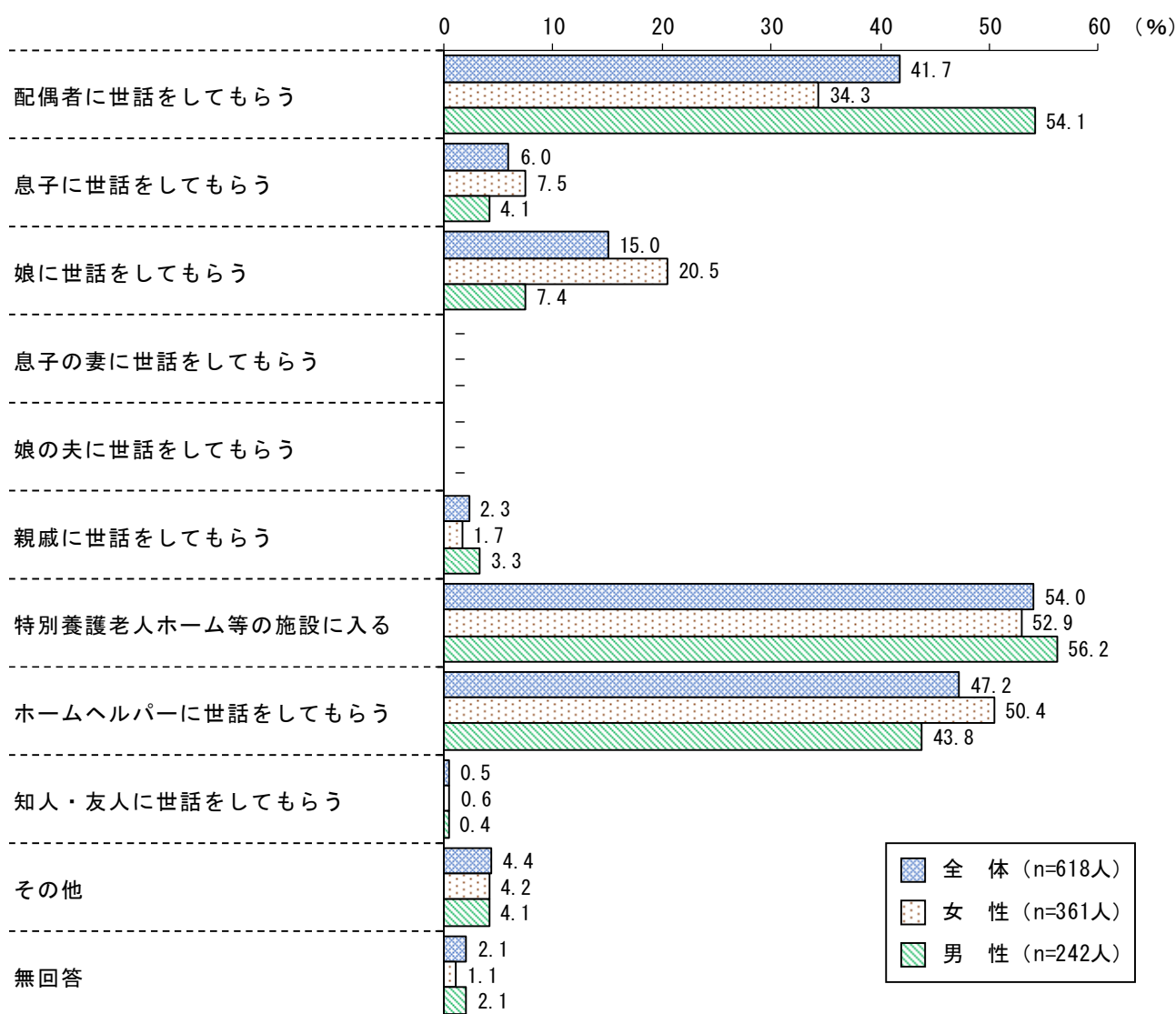
性別でみると、女性は「介護が必要になったときのこと」が 70.1%で最も多く、男性(62.4%)を 7.7ポイント上回る。女性は「住居のこと」(11.4%)も男性(4.5%)より 6.9ポイント多い。一方、男性は「健康のこと」(68.6%)が最も多く、女性(60.7%)を 7.9ポイント上回る。



問 14 あなたがもし日常生活が不自由になったとき、身の回りの世話はどなたにしてもらいたいと思いますか。(あてはまるものに2つまで○)

日常生活が不自由になったとき、身の回りの世話をしてもらいたい相手は、「特別養護老人ホーム等の施設に入る」が54.0%で最も多く、「ホームヘルパーに世話をしてもらう」(47.2%)、「配偶者に世話をしてもらう」(41.7%)が続く。

性別でみると、「娘に世話をしてもらう」は13.1ポイント、「ホームヘルパーに世話をしてもらう」は6.6ポイント、女性が男性より多い。一方、「配偶者に世話をしてもらう」は男性(54.1%)で5割を超え、女性(34.3%)を19.8ポイント上回る。

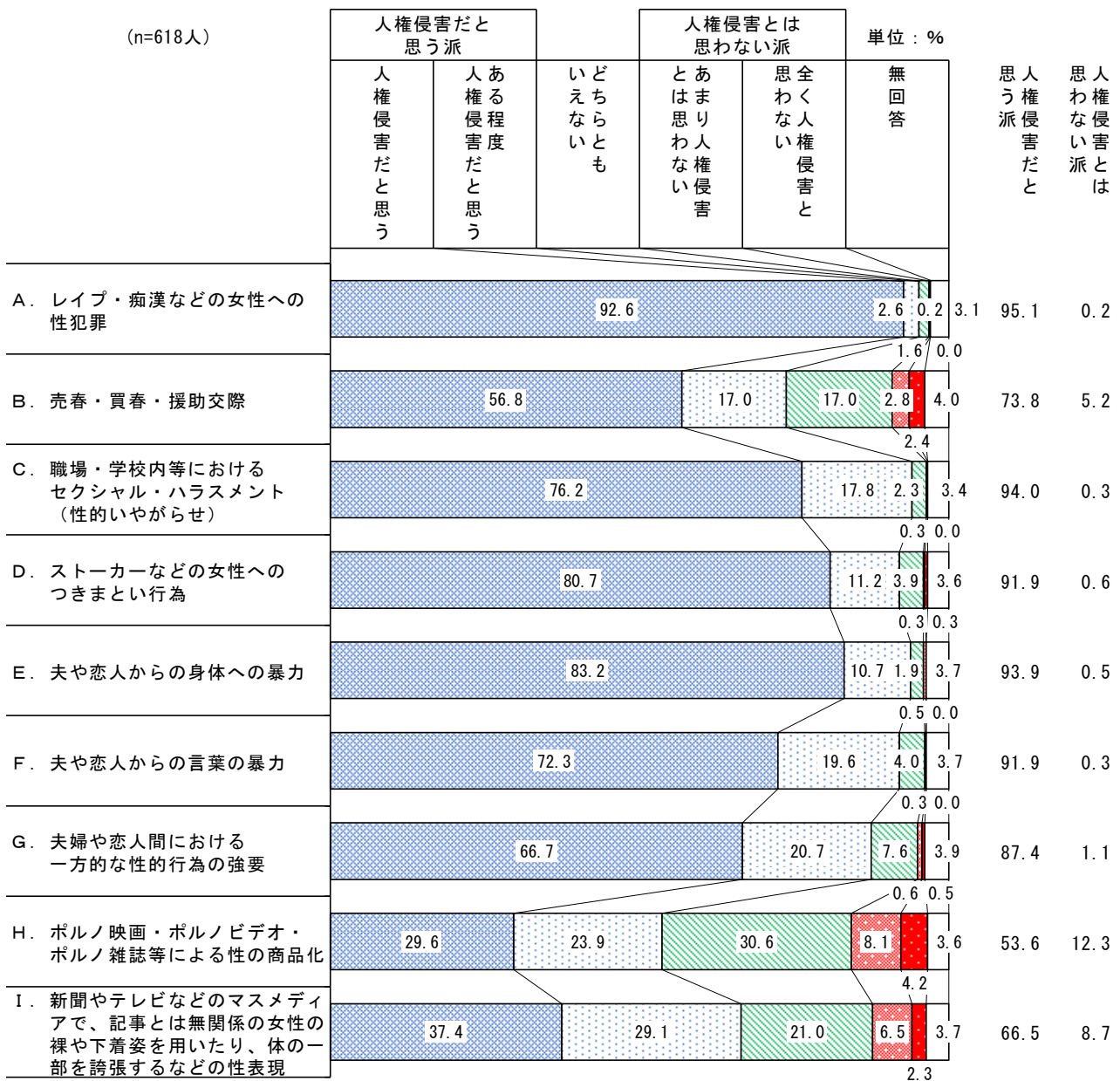


性・暴力と人権について

問 15 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことですか。

(A～Iのそれぞれについて、1～5のどれかにひとつずつ〇)

女性の人権が侵害されていると感じることについては、いずれも『人権侵害だと思う派』が5割を超え、「B. 売春・買春・援助交際」(73.8%)、「I. 新聞やテレビなどのマスメディアで、記事とは無関係の女性の裸や下着姿を用いたり、体の一部を誇張するなどの性表現」(66.5%)、「H. ポルノ映画・ポルノビデオ・ポルノ雑誌等による性の商品化」(53.6%)を除く6項目は8割を超える。



問 16 配偶者や恋人からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）と言いますが、あなたは次のような行為をDVだと思いませんか。

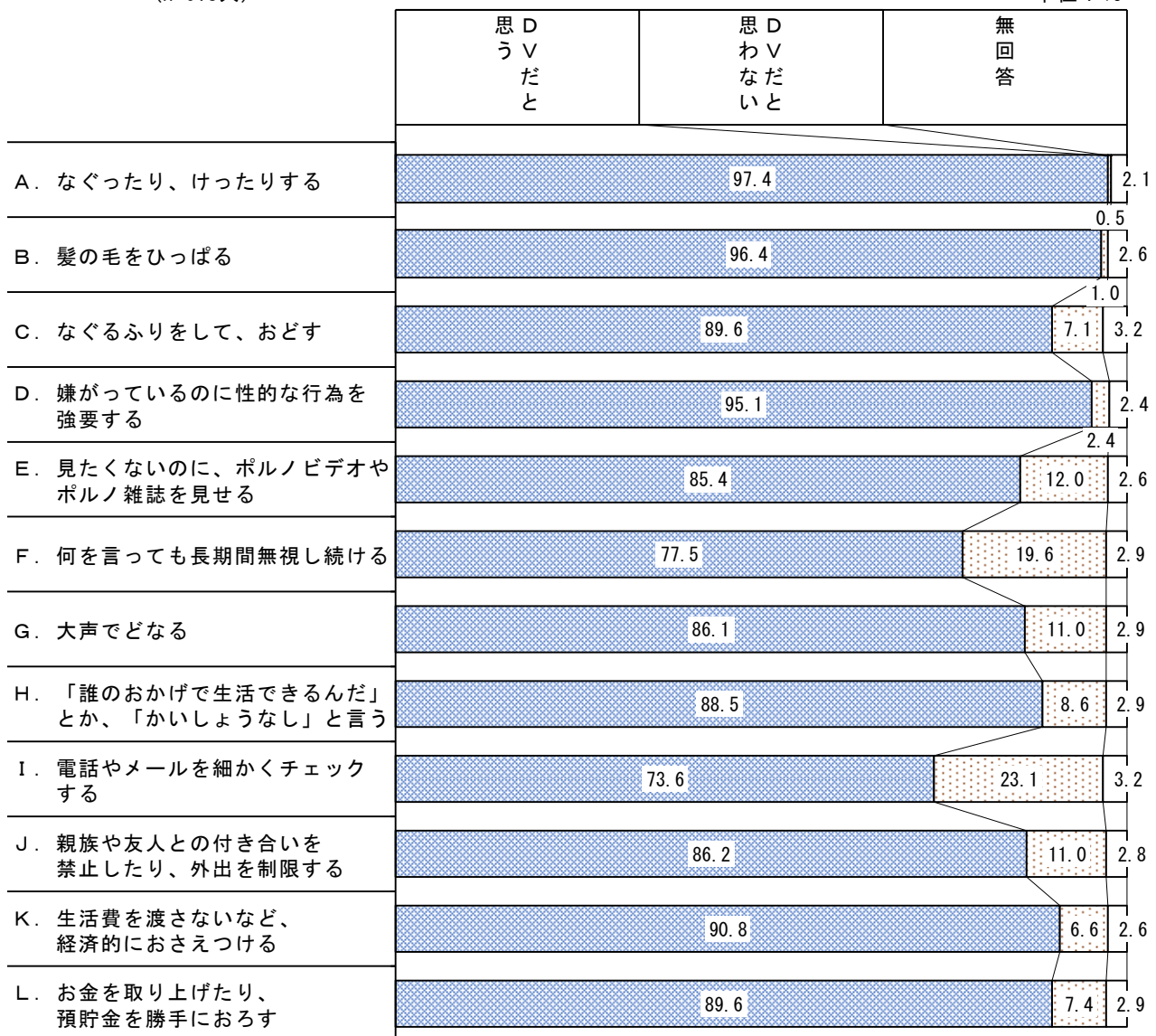
（A～Lのそれぞれについて、1～2のどちらかひとつに○）

DV（ドメスティック・バイオレンス）だと思うことについては、全12項目のうち10項目で「DVだと思う」が8割を超える。「DVだと思う」は、「A. なぐったり、けったりする」が97.4%で最も多く、「B. 髪の毛をひっぱる」(96.4%)、「D. 嫌がっているのに性的な行為を強要する」(95.1%)、「K. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつける」(90.8%)も9割を超える。

一方、「DVだと思わない」は、「I. 電話やメールを細かくチェックする」が23.1%で最も多く、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」(19.6%)、「E. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(12.0%)が続く。

(n=618人)

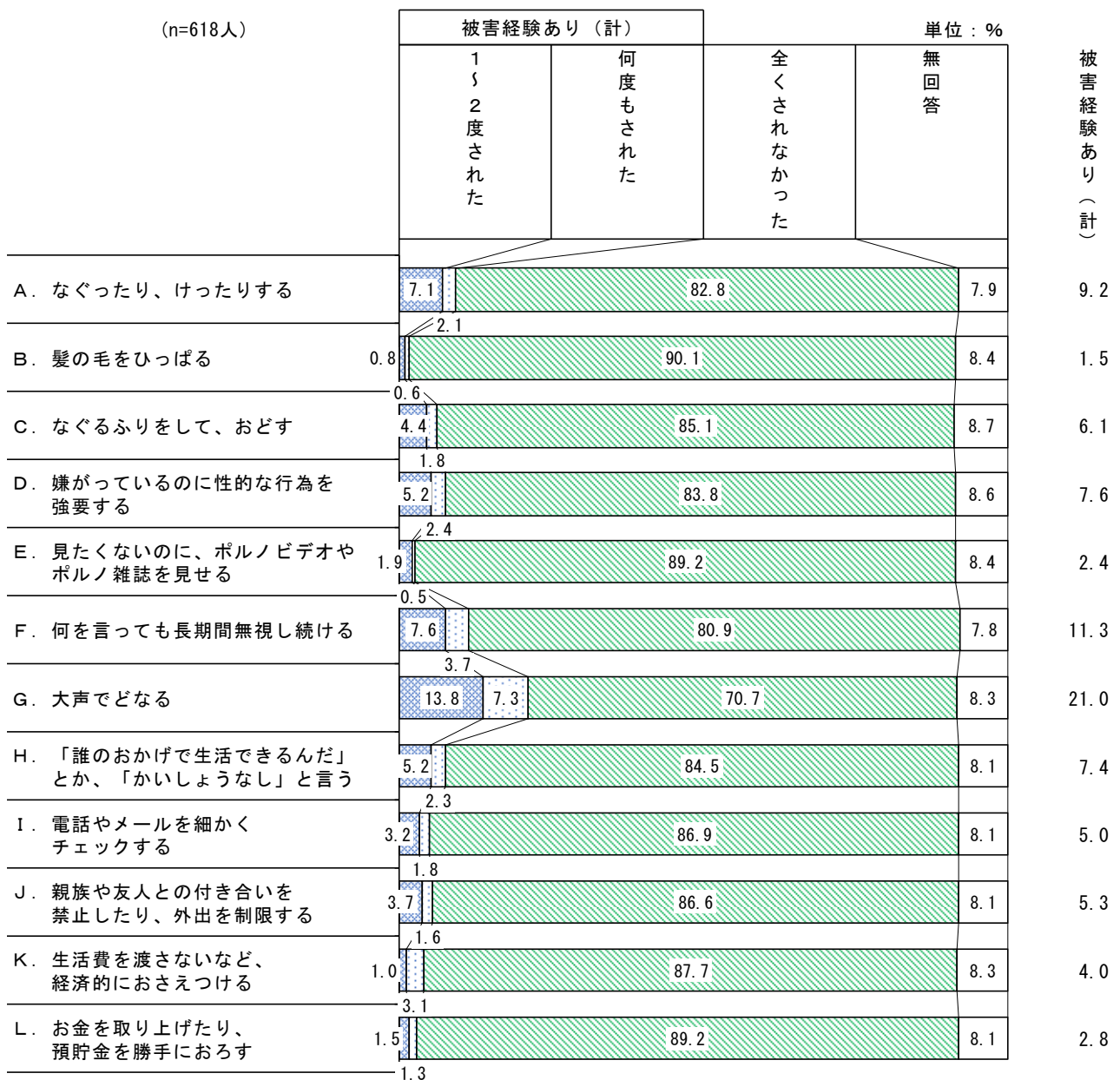
単位：%



問17 あなたはこれまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、
 次のような行為をされたこと（被害経験）、または、したこと（加害経験）がありますか。
 （A～Lのそれぞれについて、被害経験、加害経験ともに1～3のどれかひとつに○）

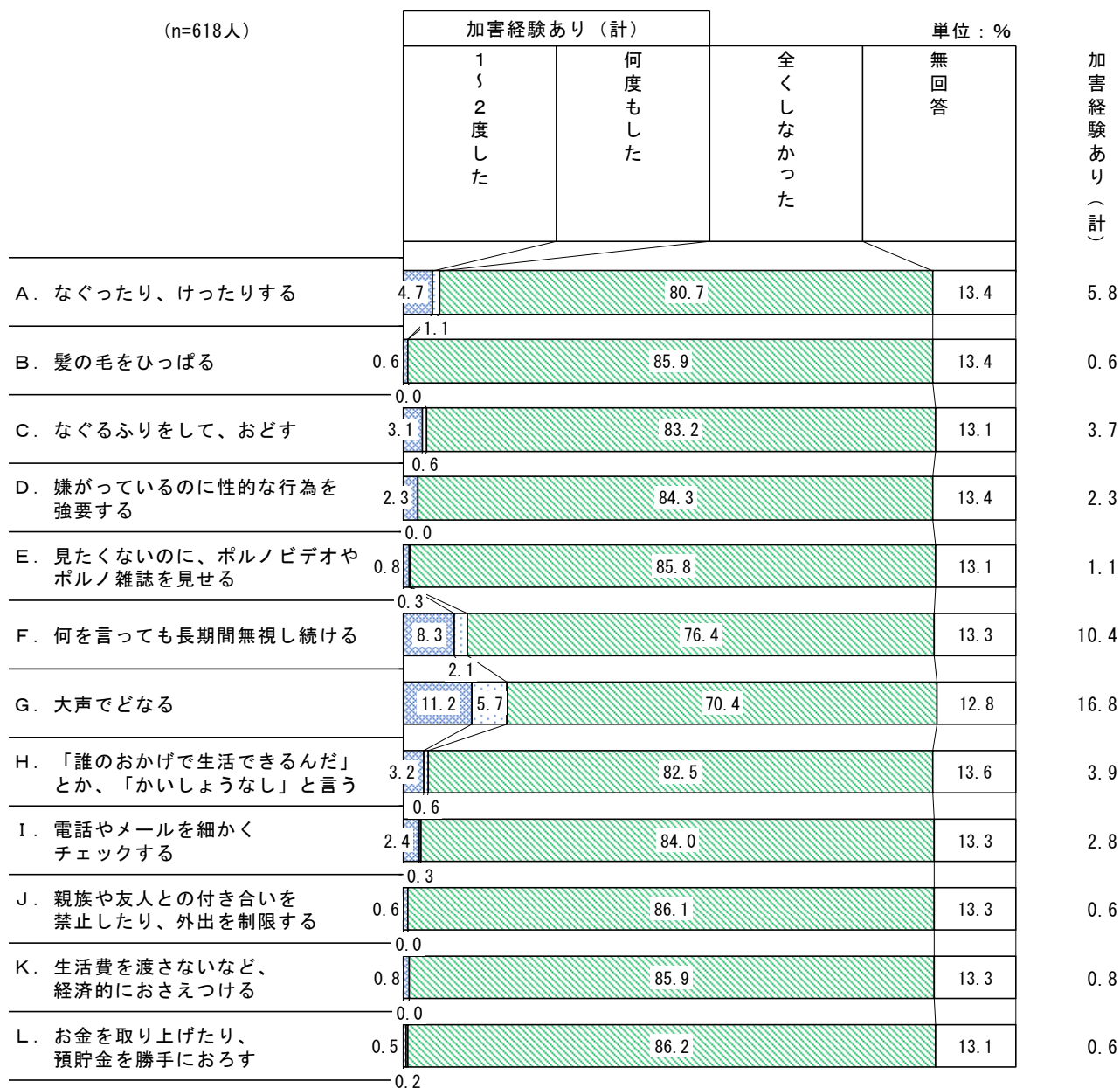
《された経験（被害経験）について》

これまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、A～Lの12項目に当たる行為を「された経験（被害経験）」があるかについては、「1～2度された」と「何度もされた」を合わせた『被害経験あり（計）』は、「G. 大声でどなる」が21.0%で最も多く、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」(11.3%)、「A. なぐったり、けったりする」(9.2%)が続く。



《した経験（加害経験）について》

これまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーに、A～Lの12項目に当たる行為を「した経験（加害経験）」があるかについては、「1～2度した」と「何度もした」を合わせた『加害経験あり（計）』は、「G. 大声でどなる」が16.8%で最も多く、「F. 何を言っても長期間無視し続ける」（10.4%）、「A. なぐったり、けったりする」（5.8%）が続く。



《された経験（被害経験）の有無》

被害経験について、A～Lの12項目のうち1つでも「された経験がある」は31.2%、1つも「された経験がない」は61.7%となっている。

性別でみると、「された経験がある」は、女性（37.1%）が男性（22.7%）より14.4ポイント多い。

単位：%

| | | された経験がある | された経験がない | 全て無回答 |
|------|-----------|----------|----------|-------|
| 全体 | (618人) | 31.2 | 61.7 | 7.1 |
| 「性別」 | 女性 (361人) | 37.1 | 57.9 | 5.0 |
| | 男性 (242人) | 22.7 | 67.8 | 9.5 |

※ A～Lの12項目の「された経験」のうち、1つでも「1～2度された」「何度もされた」という回答があった人を「された経験がある」、逆に1つも「1～2度された」「何度もされた」という回答がなかった人を「された経験がない」として集計した。なお、A～Lの12項目をすべて回答しなかった人を「全て無回答」として集計した。

《した経験（加害経験）の有無》

加害経験について、A～Lの12項目のうち1つでも「した経験がある」は23.9%、1つも「した経験がない」は63.8%となっている。

性別でみると、「した経験がある」は、男性（30.6%）が女性（20.2%）より10.4ポイント多い。

単位：%

| | | した経験がある | した経験がない | 全て無回答 |
|------|-----------|---------|---------|-------|
| 全体 | (618人) | 23.9 | 63.8 | 12.3 |
| 「性別」 | 女性 (361人) | 20.2 | 64.8 | 15.0 |
| | 男性 (242人) | 30.6 | 62.4 | 7.0 |

※ A～Lの12項目の「した経験」のうち、1つでも「1～2度した」「何度もした」という回答があった人を「した経験がある」、逆に1つも「1～2度した」「何度もした」という回答がなかった人を「した経験がない」として集計した。なお、A～Lの12項目をすべて回答しなかった人を「全て無回答」として集計した。

【問17でひとつでも「1～2度された」、「何度もされた」、
「1～2度した」、「何度もした」と回答した方におたずねします】

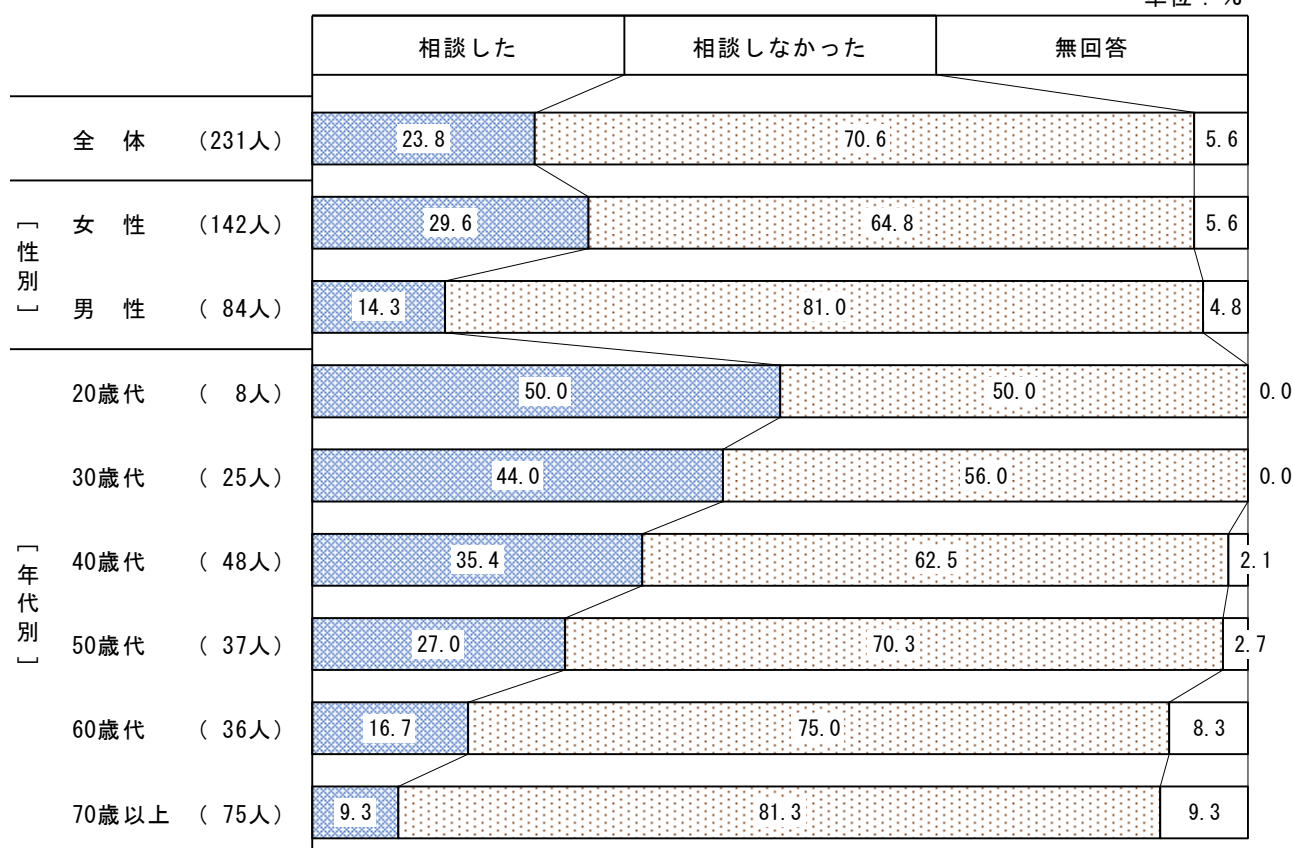
問18 あなたは、これまで暴力をされた、または、したことについて、誰かに打ち明けたり
相談したりしましたか。(1～2のどちらかに○)

問17のA～Lの12項目のうち、1つでも「された経験がある」「した経験がある」と回答した人に、これまでの経験を誰かに打ち明けたり相談したりしたかをたずねたところ、「相談した」は23.8%、「相談しなかった」は70.6%となっており、相談したのは4人に1人程度にとどまる。

性別でみると、「相談した」は女性(29.6%)が男性(14.3%)より15.3ポイント多く、ほぼ2倍となっている。

年代別でみると、「相談した」は年代が上がるにつれ減少する傾向にある。一方、「相談しなかった」はすべての年代で5割以上を占める。

単位：%

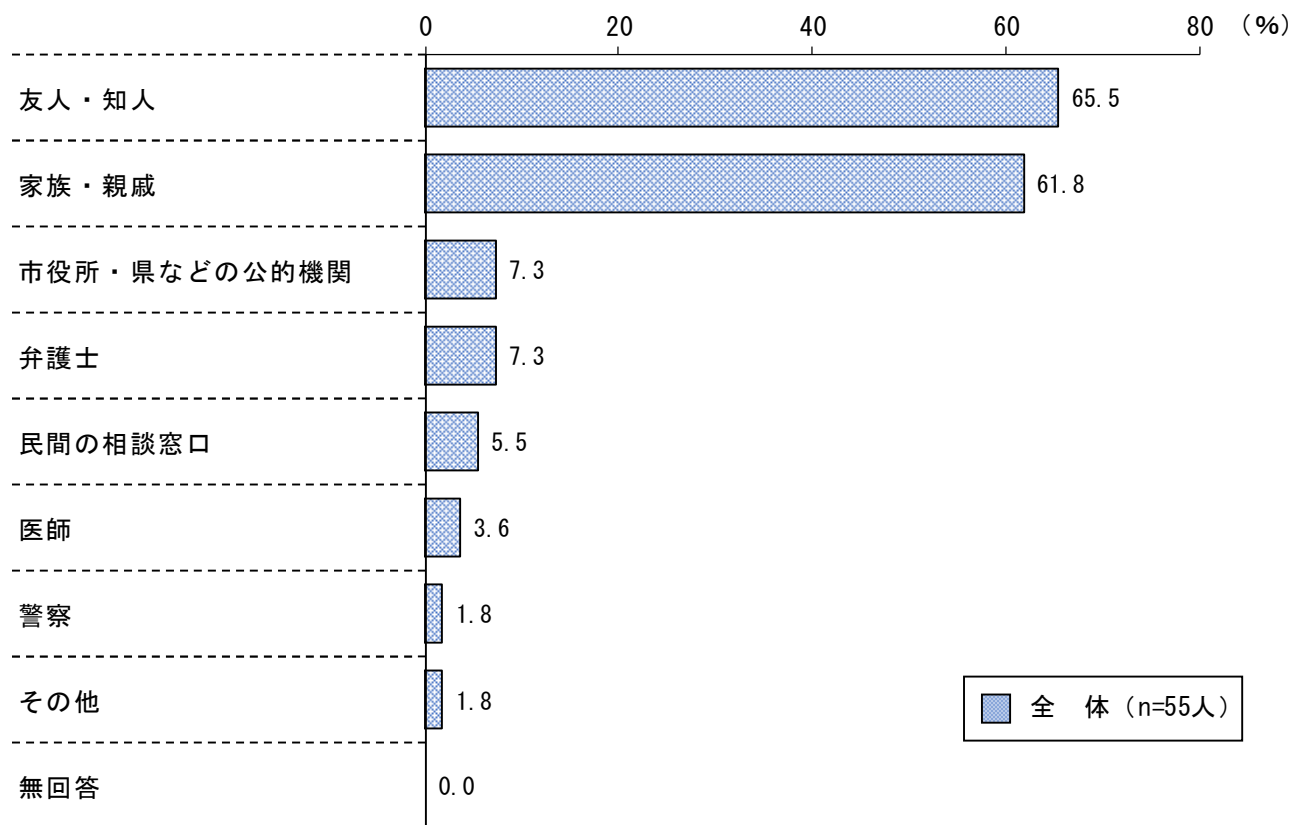


※10歳代は該当者なし

【問 18 で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします】

問 18-1 どこ（誰）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

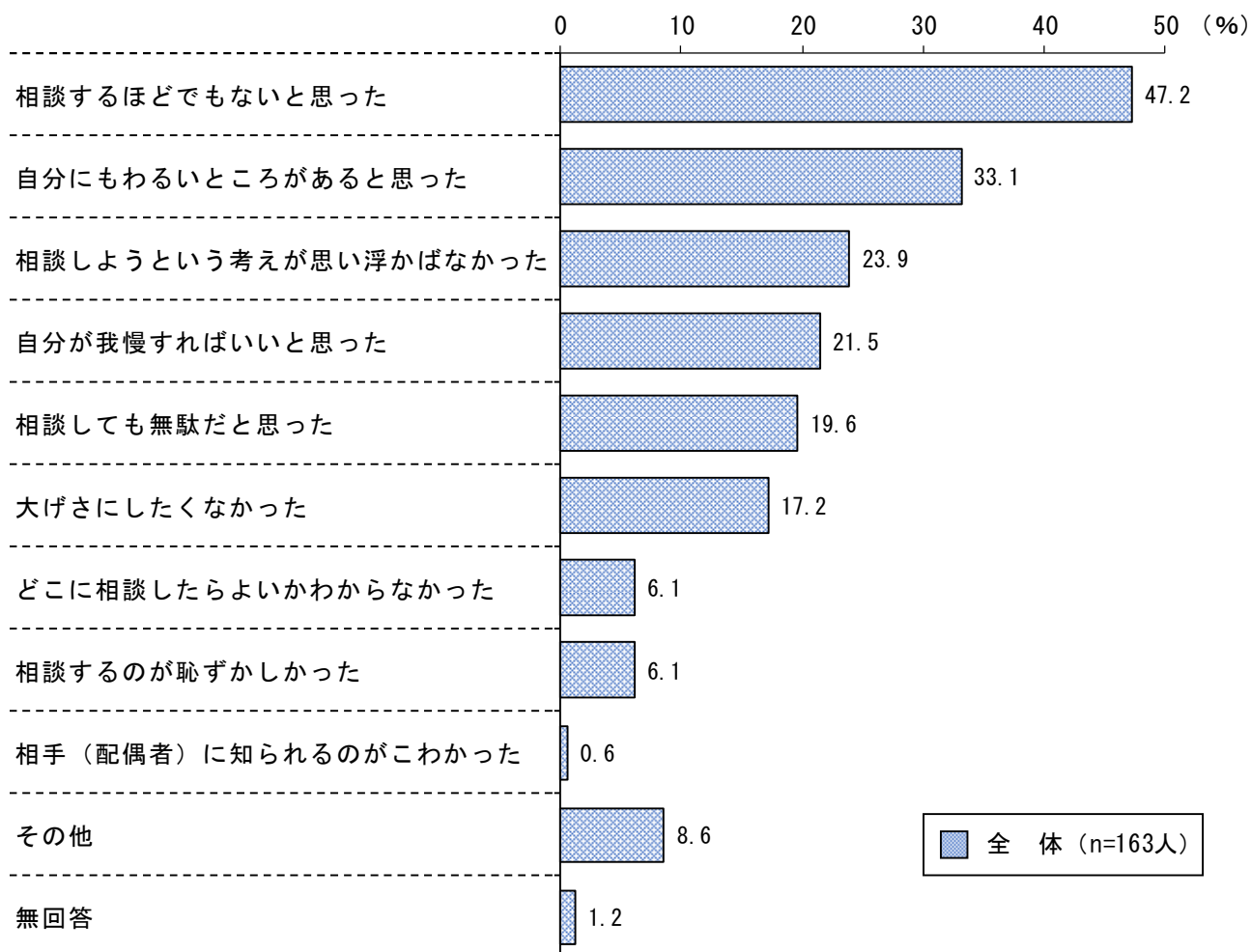
相談したと回答した人に、相談先をたずねたところ、「友人・知人」（65.5%）、「家族・親戚」（61.8%）が6割を超え、「市役所・県などの公的機関」「弁護士」（各7.3%）以下は1割未満となっている。



【問 18 で「2. 相談しなかった」とお答えの方におたずねします】

問 18-2 相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

相談しなかったと回答した人に、その理由をたずねたところ、「相談するほどでもないと思った」が 47.2%で最も多く、「自分にもわるいところがあると思った」(33.1%)、「相談しようという考えが思い浮かばなかった」(23.9%)が続く。



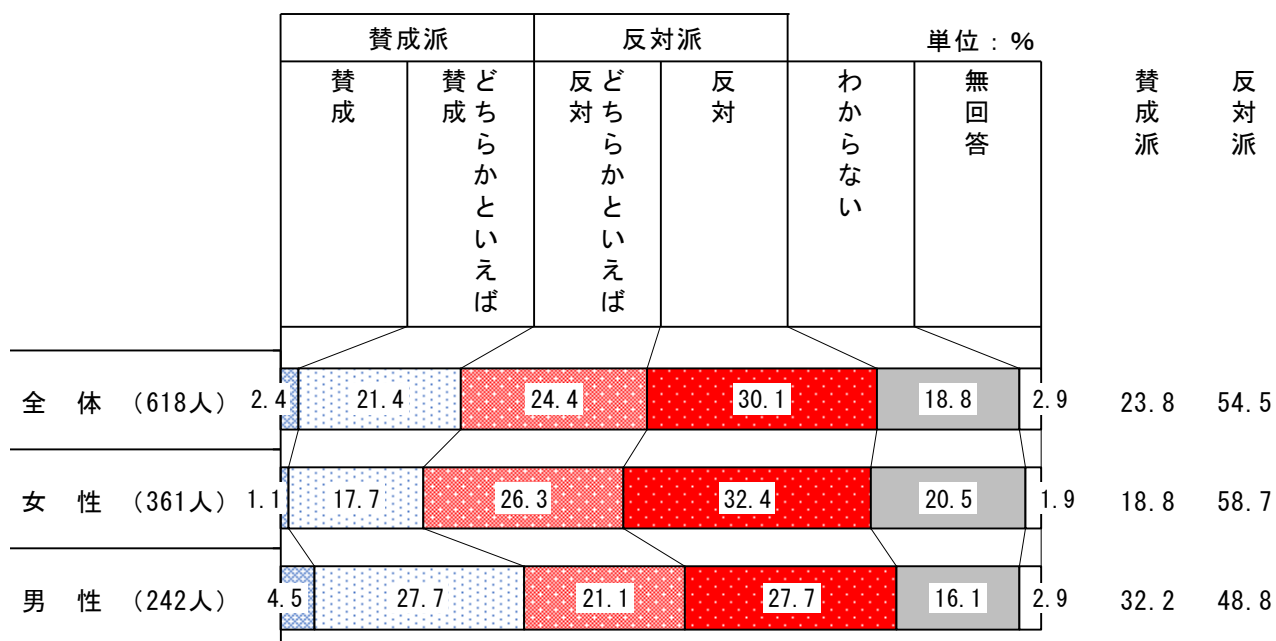
性別の意識や考え方について

問 19 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方をどう思いますか。

(ひとつに〇)

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』は 23.8%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対派』は 54.5%で、『反対派』が『賛成派』を 30.7 ポイント上回る。

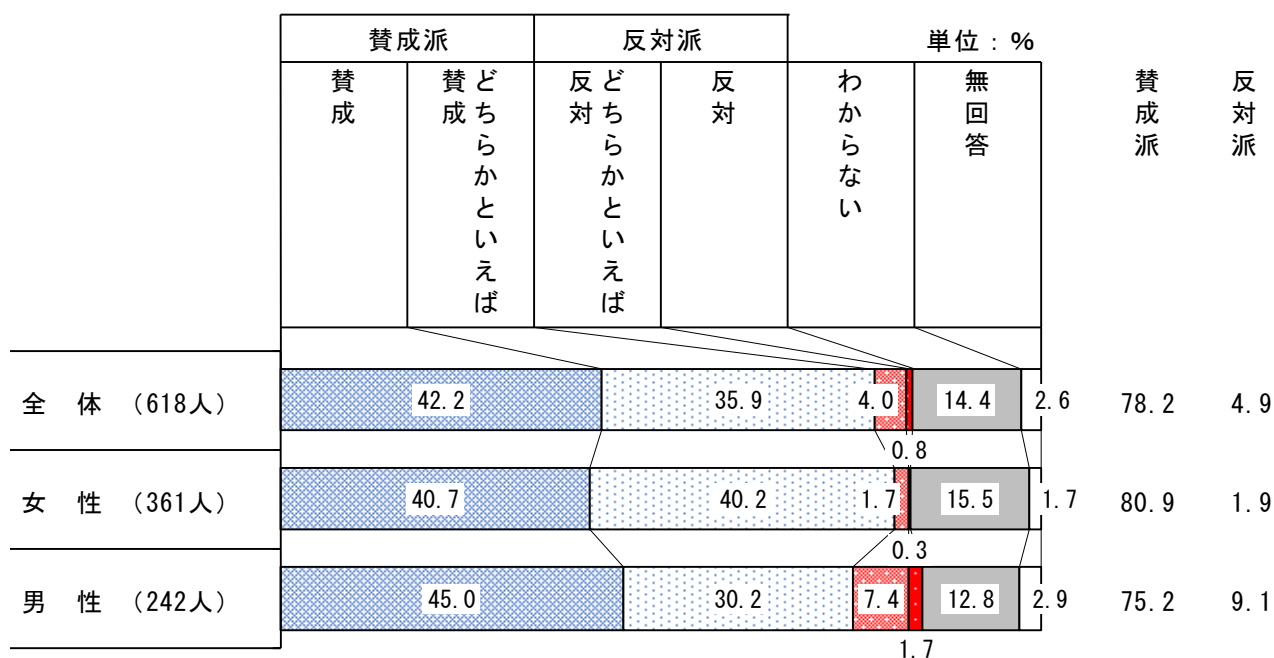
性別でみると、『賛成派』は男性 (32.2%) が女性 (18.8%) より 13.4 ポイント多い。一方、『反対派』は女性 (58.7%) で5割を超え、男性 (48.8%) を 9.9 ポイント上回る。



問 20 女性があまり進出していない分野で、女性の登用を計画的に進めていくことをポジティブ・アクション（積極的改善措置）といます。このような取り組みを行うことについて、どう思いますか。（ひとつに○）

ポジティブ・アクションについては、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』は78.2%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対派』は4.9%で、『賛成派』が『反対派』を73.3ポイント上回る。

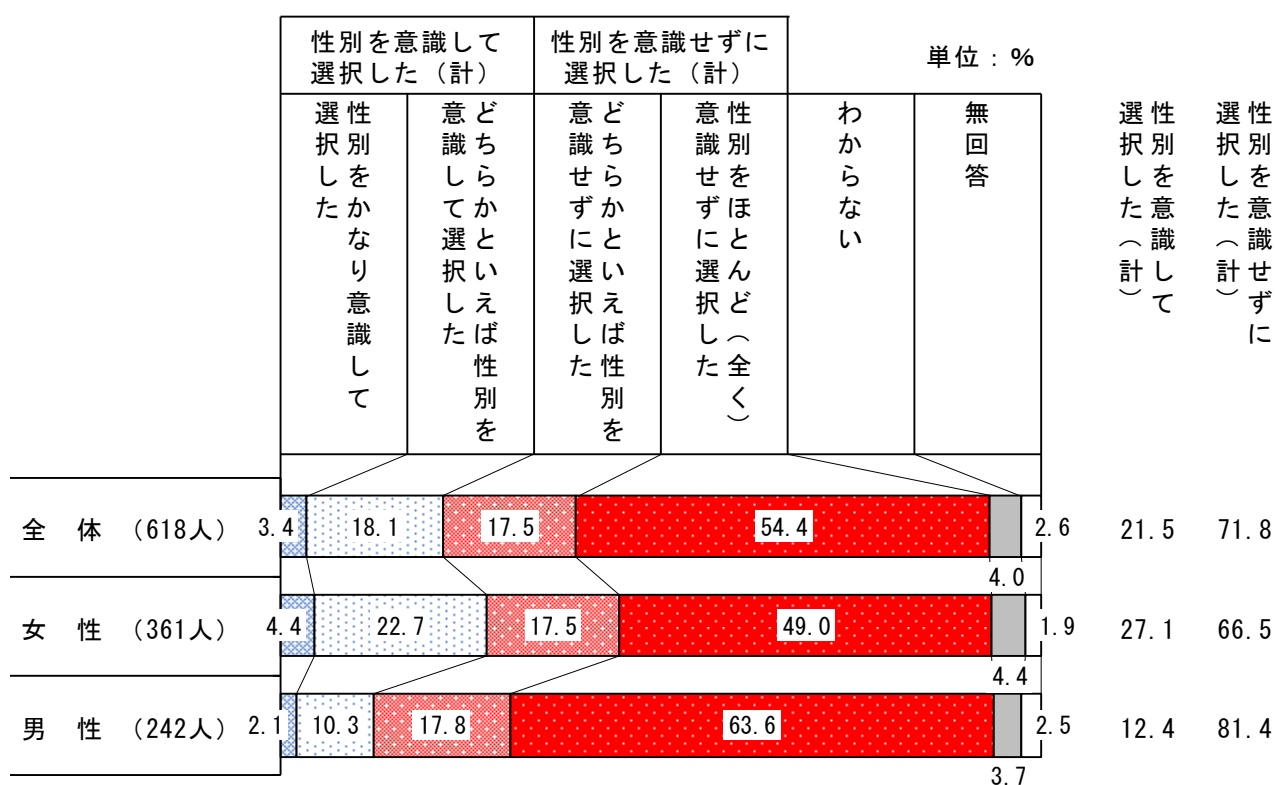
性別でみると、『賛成派』は女性（80.9%）が男性（75.2%）より5.7ポイント多い。一方、『反対派』は男女とも1割未満であるが、男性（9.1%）が女性（1.9%）を7.2ポイント上回る。



問 21 進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(ひとつに〇)

進路や職業を選択する際に、性別を意識したかについては、「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」を合わせた『性別を意識して選択した(計)』は21.5%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」と「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」を合わせた『性別を意識せずに選択した(計)』は71.8%となっている。

性別でみると、『性別を意識して選択した(計)』は女性(27.1%)が男性(12.4%)より14.7ポイント多い。一方、『性別を意識せずに選択した(計)』は男性(81.4%)が女性(66.5%)を14.9ポイント上回る。

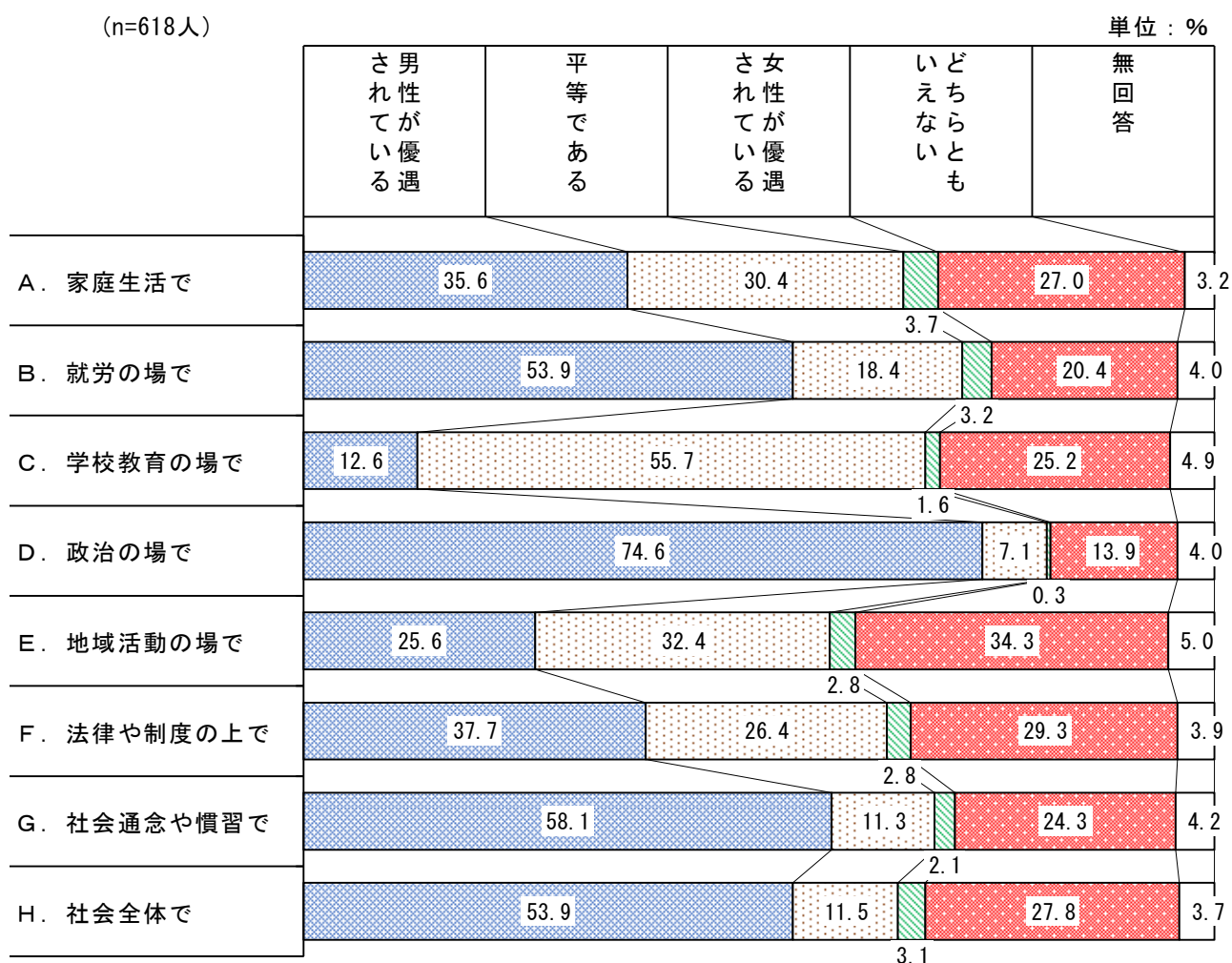


問 22 次の分野で男女は平等になっていると思いますか。

(A～Hのそれぞれについて、1～4のどれかひとつに○)

各分野における男女の平等感については、「平等である」は「C. 学校教育の場で」が 55.7%で最も多く、「E. 地域活動の場で」(32.4%)、「A. 家庭生活上で」(30.4%)が続く。一方、「平等である」が最も少ないのは「D. 政治の場で」(7.1%)となっている。

「男性が優遇されている」は「D. 政治の場で」が 74.6%で最も多く、「G. 社会通念や慣習で」(58.1%)、「B. 就労の場で」「H. 社会全体で」(各 53.9%)の4分野で5割を超える。一方、「女性が優遇されている」はいずれも1割未満となっている。



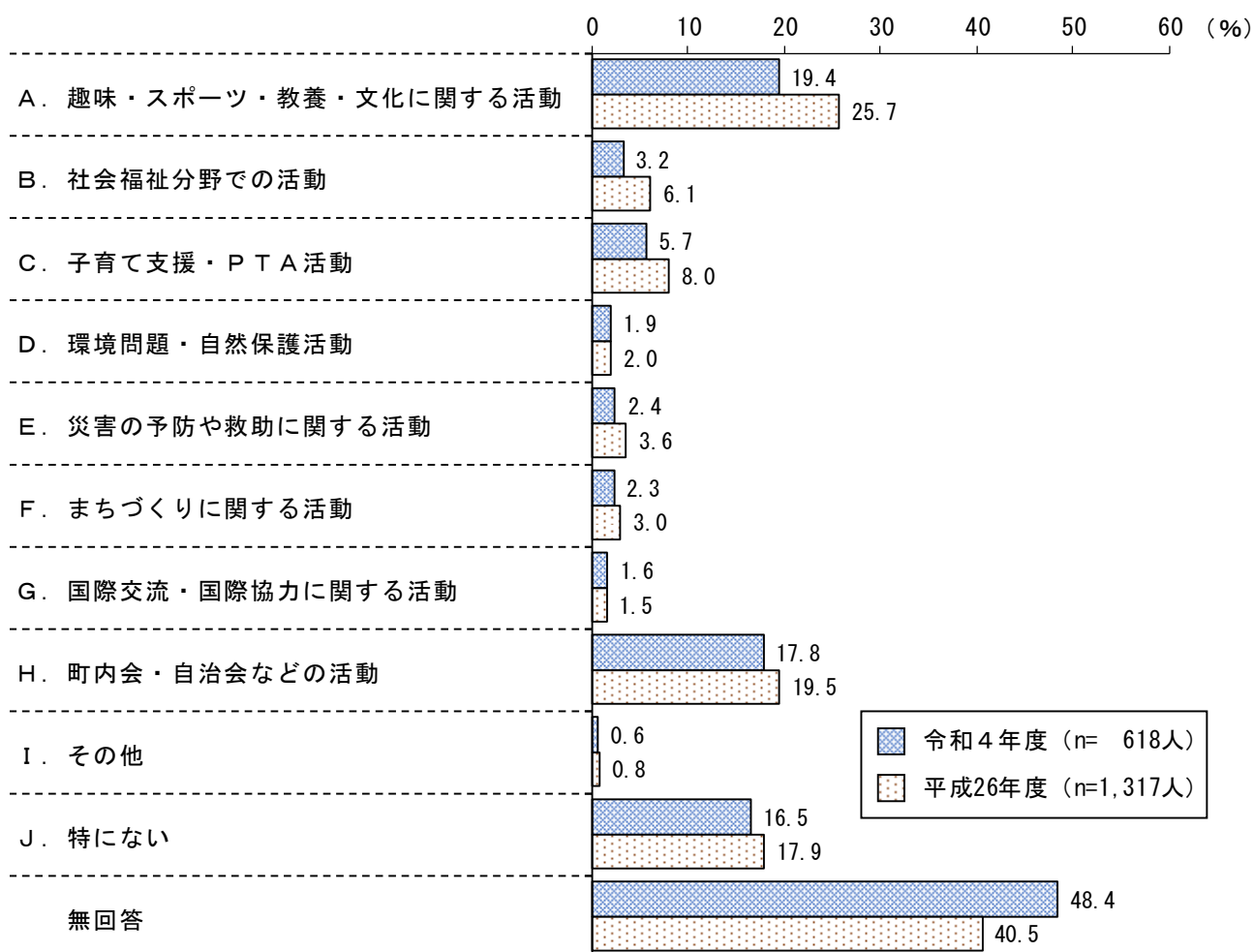
個人の活動や行政への期待について

問 23 (1) 次の地域活動の中で、現在、参加している地域活動はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

現在参加している地域活動については、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が 19.4%で最も多く、「H. 町内会・自治会などの活動」(17.8%)、「C. 子育て支援・PTA活動」(5.7%)が続く。一方、「特にない」は 16.5%となっている。

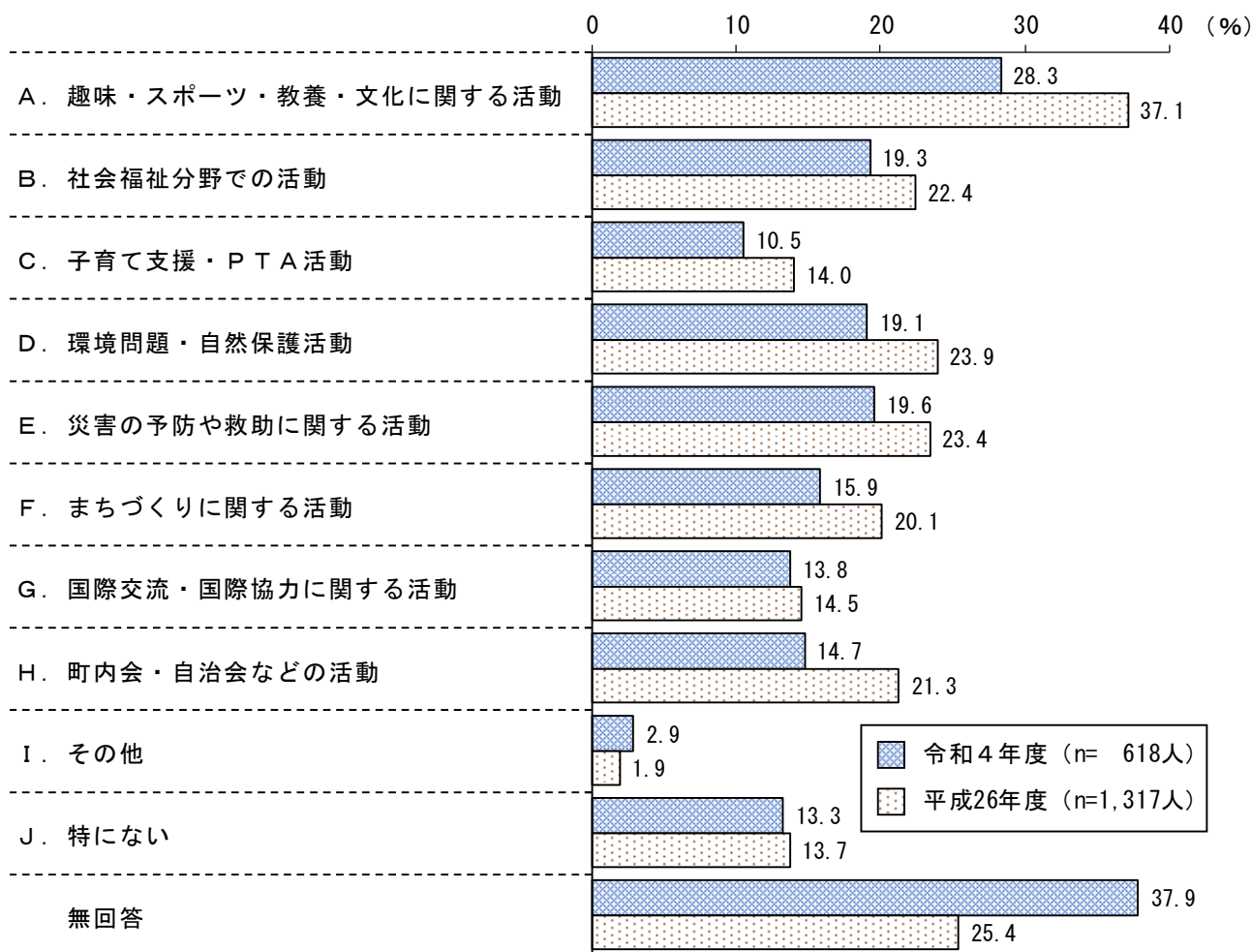
前回の調査と比較すると、「G. 国際交流・国際協力に関する活動」を除き平成 26 年度を下回り、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」は 6.3 ポイント減少した。



問 23 (2) 次の地域活動の中で、今後参加したい地域活動、または引き続き行いたい地域活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

今後参加したい地域活動、または引き続き行いたい地域活動については、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」が28.3%で最も多く、「E. 災害の予防や救助に関する活動」(19.6%)、「B. 社会福祉分野での活動」(19.3%)が続く。一方、「特にない」は13.3%となっている。

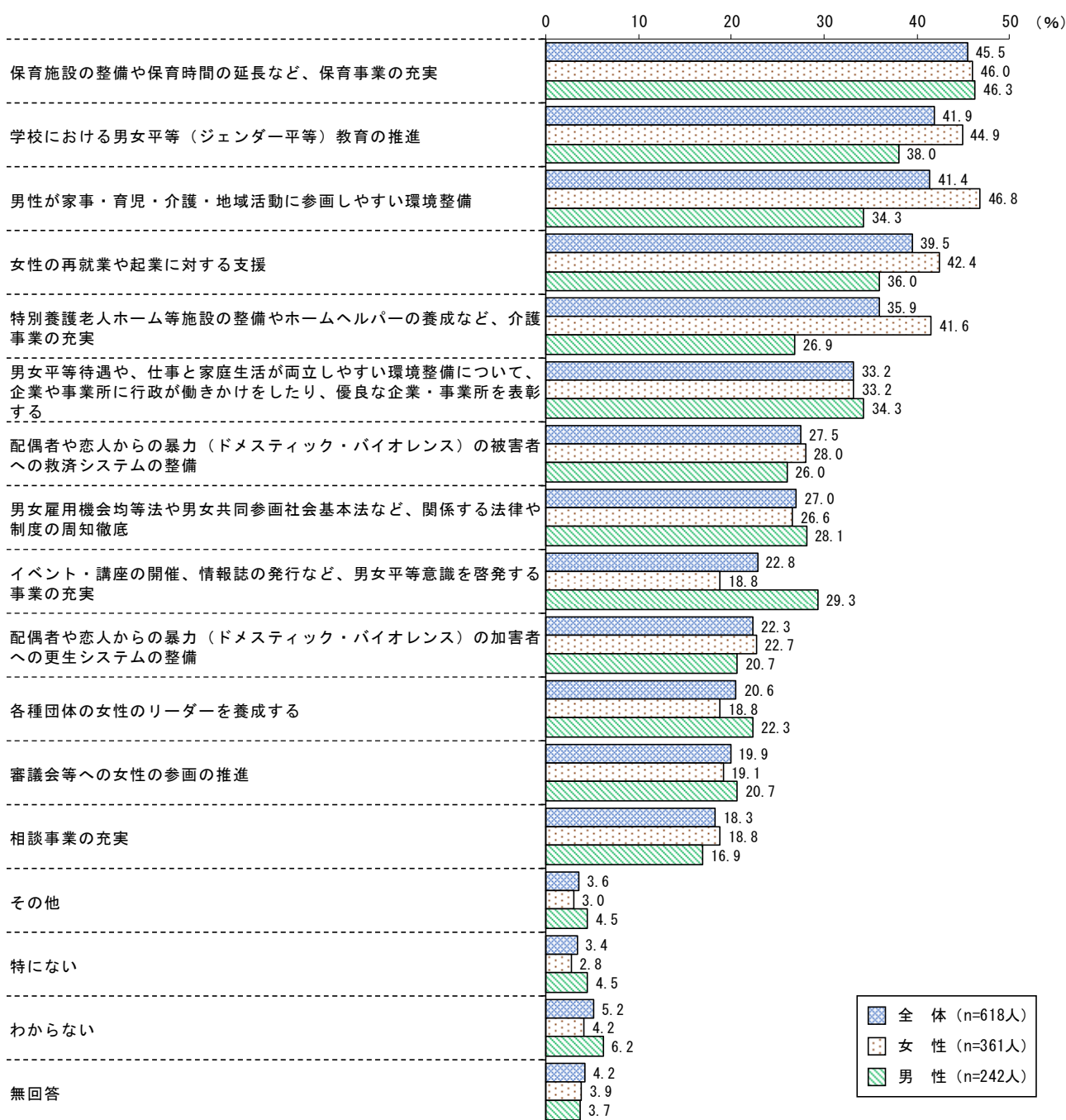
前回の調査と比較すると、すべての項目が平成26年度を下回り、「A. 趣味・スポーツ・教養・文化に関する活動」は8.8ポイント、「H. 町内会・自治会などの活動」(14.7%)は6.6ポイント減少した。



問 24 「男女共同参画社会（ジェンダー平等）」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政が力を入れるべきことは、「保育施設の整備や保育時間の延長など、保育事業の充実」が 45.5%で最も多く、「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」（41.9%）、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」（41.4%）が続く。

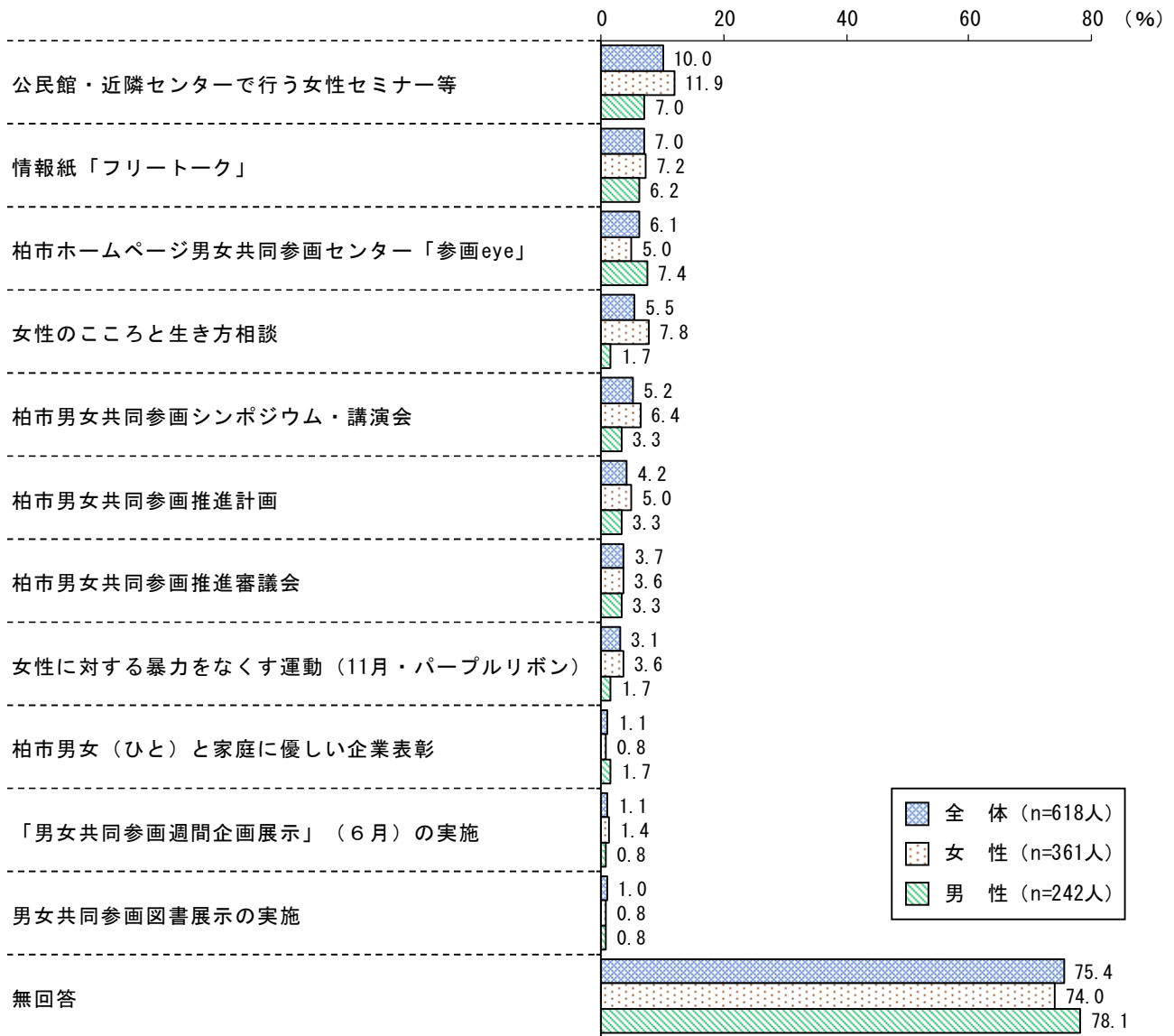
性別でみると、女性は「特別養護老人ホーム等施設の整備やホームヘルパーの養成など、介護事業の充実」「男性が家事・育児・介護・地域活動に参画しやすい環境整備」が 10 ポイント以上、「学校における男女平等（ジェンダー平等）教育の推進」「女性の再就業や起業に対する支援」が 6 ポイント以上、男性より多い。一方、男性は「イベント・講座の開催、情報誌の発行など、男女平等意識を啓発する事業の充実」が女性を 10.5 ポイント上回る。



問 25 柏市で男女平等を推進するために行っている様々な取り組みのうち、知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

男女平等を推進するために行っている取り組みについて知っているものは、「公民館・近隣センターで行う女性セミナー等」が10.0%で最も多く、「情報紙「フリートーク」」(7.0%) 以下は1割未満となっている。

性別でみると、「女性のこころと生き方相談」は女性(7.8%)が男性(1.7%)より6.1ポイント多い。



令和4年度 男女共同参画に関するアンケート調査
結果報告書《ダイジェスト版》

令和5年4月

発行：柏市企画部 共生・交流推進センター

〒277-0005

千葉県柏市柏1-7-1-301 Day One タワー3F

パレット柏内

TEL：04-7167-0941

FAX：04-7165-7323